

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

令和元年度事業報告

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

はじめに

当財団は、組織の強みである高度な専門性を活かし、横浜市の歴史文化行政の推進を担っています。

そのため、市との強固な連携のもと、横浜市民に歴史文化を浸透させていくため、法人の基幹業務である博物館等の指定管理業務や多様な委託業務を通じ、各テーマそれぞれに専門の職員が中心となって、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発などに取り組んでいます。

私たちはこうした取組により、先人たちの歩みや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び市民文化の発展につなげていくことを使命にしています。

法人経営の節目の年であった令和元年度は、第3期指定管理4年目として中間評価を行う年であり、また、第5期協約として掲げた目標への取組結果が明らかになる最初の年でもありました。

加えて、文化財保護法の改正に対応し、市文化財行政の今後のメルクマールとなる「文化財保存・活用地域計画」策定に着手された年でもありました。

そのため、指定管理3年間の目標である「財団全施設の連携にむけて、基礎づくりを丁寧に行います」の到達度を振り返るとともに、5年間の目標である「5館連携による豊かで幅広い取組を推進していきます」の達成に向けた事業展開を図りました。

特に、歴史博物館が8月から長寿寿命化工事のため閉館となった機会を捉え、アウトリーチ事業の展開に際し、他施設との連携に積極的に取り組むとともに、横浜市新市庁舎移転に際しても、3館連携による展示を企画するなど、連携による豊かで幅広い取組の推進を図りました。

また、協約目標では、入館者数など進捗に課題がある点について、令和2年度の目標達成に向けて、平成30年度の結果を踏まえ、修正すべきあるいは新たに取り入れるべき要素など、今後の対応を組織全体で共有する機会を作りました。このようにこれまでの取組を振り返るとともに今後の展望を描く「文化財保存・活用地域計画」策定の基礎となる横浜市内の文化財の全容を改めて明らかにするため、有形・無形の文化財の状況をまとめる調査を市とともに実施しました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2月下旬以降、各種イベントの中止、各施設の臨時休館という対応をとることになったため、計画した事業を十分に展開することはできませんでした。

厳しい経営環境にはあるものの、喫緊の課題である財務状況は、職員の不断の努力によ

る徹底的な運営効率化による事業費の抑制などの取組をはじめ、発掘事業の受注が増加したことで、着実に改善し、正味財産期末残高は短期の目標に掲げる1億円を超えることが確実となっています。今後も、経営環境を整え、引き続き財務改善に取り組むとともに組織運営の強化・効率化を図ることにより、財団の使命達成に向け、積極的に動ける体力を備えていきます。

新型コロナウイルスによる休館

2月29日（土）～

- ・横浜開港資料館
- ・横浜都市発展記念館
- ・横浜ユーラシア文化館
- ・埋蔵文化財センター

3月2日（月）～

- ・横浜市三殿台考古館
- ・横浜市史資料室
- ・横浜市八聖殿郷土資料館

※横浜市歴史博物館は、8月から改修工事のため臨時休館

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

事業の調整、諸会議の運営等を実施し、円滑な組織運営を図りました。また、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を的確に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 人材育成を着実に進める効果的な研修の実施 ・財団事務実務研修（講師：財団先輩職員） ・外部研修への参加（公益法人協会主催セミナー等） (2) 職員が自らのキャリアパスを意識できる自己申告制度の実施 職員自己申告の実施 (3) 役員会議等の諸会議の開催、規則整備 役員会議（第1部、第2部） 月2回 課長会議 月2回程度 <主な内容> ・財団内会議の見直し（経営戦略会議の設置等） ・定款の変更（代表理事の定員等） ・新型コロナウイルス感染拡大防止対応 ・人事制度の検討（グループリーダーの創設）
2	人事労務・財務の管理	(1) 職員の採用、異動等雇用管理 (2) 就業規則他諸規則の整備及び運用 (3) 給与、社会保険、税金関係等 (4) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策

		(5) 職員メンタルヘルスの支援 (6) 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算 (7) 寄附金・協賛金獲得の企画調整
3	予算編成と執行管理	(1) 予算要求制度の継続実施 (2) 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算の実施
4	災害対応	(1) 防災訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年6回（書面含む） (2) 評議員会の開催 年2回 (3) 神奈川県への報告
6	所管局への報告調整	(1) 指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく報告 (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止対応等の報告・調整 (4) 課題の共有化と迅速効果的な対応を図るための定期的な意見交換の実施（毎月）
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理（情報公開項目の更新等） (2) メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器（ソフトウェア等を含む）の保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの更新と円滑な運用 (4) 在宅勤務への対応
9	事業推進	(1) 事業戦略の共通認識を図るため、会議体及び組織の見直し ・経営戦略会議を設置 ・各施設に管理運営担当係長の設置を決定 (2) 財団内での多様な連携で取り組む「連携事業」の推進 ・オリンピック・パラリンピックに向けた連携企画等の準備 ・新市庁舎移転記念連携企画及び共通入場券の発行 (3) 財団の役割や存在、財団事業を伝える効果的な広報戦略 ・横浜市新採用教員研修への支援 (4) 市民協働の推進 (5) 評価軸の検討 ・定性評価に向けた情報収集、検討 (6) 「横浜市文化財保存活用地域計画（仮称）」策定に向けた基礎資料作成業務委託の実施
10	エデュケーター事業	(1) 学校連携による財団各施設の利用促進の強化、拡充 (2) 教職員研修の企画・調整・運営 ・市教委、小・中学校社会科研究会、財団が主催する研修 (3) 小学校博物館利用研究会、中学校教材開発研究会 ・企画、調整、運営 (4) 社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援

		(5) 訪問授業及び講演会等の拡充 実施校69校 対象児童7,590人 (6) 授業改善のためのアンケート実施と検証 (7) 子どもの学びのための資料作成
11	経営・基幹事業 状況の総括・分 析及び企画調整	(1) 第5期協約目標の平成30年度取組状況総括と課題に関する次年度の対応検討・実行に向けた調整 (2) 指定管理者選定評価委員会中間評価への対応 ・平成28年度から30年度の指定管理業務の取組総括 ・次期中間評価に向けた方針及び取組内容の企画検討・調整

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	協約目標の達成に向けて財団が一体となって各事業を展開した。 財団財務状況については、事業支出の抑制などにより、改善を図ることができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止に際し、市と連携して適切に対応することができた。 経営状況の分析と今後の課題への対応の方向を示すとともに、指定管理者としての実績をアピールすることで、市の歴史文化事業を担える組織の適格性を示すことができた。 業務の調整、諸会議の運営、人事労務事務等は適切に実施することができた。	A

Ⅱ 指定管理事業

1 財団全体としての取組み及び事業

令和元年度は、第3期指定管理4年目であることから、5館連携による豊かで幅広い取組の推進に向けて事業を進めてきました。特に、オリンピック・パラリンピックや横浜市新市庁舎移転の機会を捉え、各施設の強みを生かしつつ、柔軟な発想と多様性を生み出しながら、連携と一体的運営を念頭に事業の展開を図りました。

令和2年1月までは計画通りに事業を展開しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に対応するため、2月下旬からはイベント等を中止するとともに、各施設を臨時休館としたことにより、事業を十分に展開することができませんでした。また、外出自粛要請に応えるため、時差出勤を取り入れ、職員の出勤体制を調整しました。

そうした中でも、各施設の職員が連携・協力し、年度切り替え等の業務を滞りなく行うとと

もに施設再開に向けた準備作業等を行いました。

別表 【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先	中心となる施設	内 容
区・地域との連携	鶴見区	埋蔵文化財センター	・ 鶴見図書館イベントへの協力
	中区	開港資料館 都市発展記念館	・ 広報よこはま中区版の連載「なか区歴史の散歩道」執筆
	中区	開港資料館	・ 中消防署開設 100 周年記念事業に関連した企画展の開催
	磯子区	三殿台考古館	・ 区内の市民利用施設が企画するゴールデンウィーク企画への参加 (いそっぴゴールデンウィーク 2019 スタンプラリー) ・ 区役所ホールでのパネル展示
	金沢区	歴史博物館	・ 歴史協定による連携事業、金沢図書館での展示 ・ 「むかし体験」訪問歴史授業の受託
	港北区	歴史博物館	・ 小机城址の教育普及業務の受託
	緑区	埋蔵文化財センター	・ 地区センターとの連携
	都筑区	歴史博物館 開港資料館 ユーラシア文化館 三殿台考古館 埋蔵文化財センター	・ 区制 25 周年を記念する「図説 都筑の歴史」刊行に協力 ・ 都筑区、都筑図書館と連携したアウトリーチ展示の開催
	横浜中華街各種団体	ユーラシア文化館	・ 企画展「装いの横浜チャイナタウン」への協力 (横浜中華街発展会協同組合、広東會館倶楽部、横浜華僑婦女会、横浜華僑総会、横浜華僑総会)
	日本大通り活性化委員会	ユーラシア文化館	・ スタチュー・フェスタ実施への連携
	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・ ハマフェス実施への調整 スタチュー・フェスタ実施への連携
市との連携	市主催研修会	都市発展記念館 開港資料館 ユーラシア文化館 市史資料室	・ 企画展を活用した局主催の研修会への協力 ・ 市新採用職員研修での講話

	新市庁舎	都市発展記念館 埋蔵文化財センター 歴史博物館	・新市庁舎で屋外展示される遺構の解説版作成への協力 ・新市庁舎完成記念三館連携展示プレ展示の開催
	各局	全施設	・市民局と連携して、2020 オリ・パラの機運醸成に向けた関連パネル展示（開港） ・市民局と連携して、ラグビーワールドカップ開催記念事業でのトロフィー展示（開港） ・市で開催されるイベントへの協力 ・館内展示、展示パネル作成、寄稿等
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面事務所 ハマアップ	全施設	・「授業づくり講座」等職員向け研修への協力 ・教材研究資料として財団作成資料、図録を配架 ・教員研修会案内
	教職員育成課	全施設	・横浜市新採用教員研修支援事業（新採用教員への施設無料パス配布） ・アイカレッジでの研修講師、施設見学（教員として横浜の歴史を学ぶ）
	生涯学習文化財課	三殿台考古館	・子どもアドベンチャーへの協力（8月16日 荒天のため中止）
		歴史博物館	・横浜市文化財調査への職員派遣
市・区研究会との連携	社会科研究会（市・区）	全施設	・教員研修講師、施設見学 ・教材研究用資料案内 ・小学校博物館研究会（再掲） ・中学校教材開発研究会（再掲）
学校連携	小学校	全施設	・歴史学習・社会見学・展示見学の受入 ・学芸員、エドゥケーターによる訪問授業
	小・中・特支学校 地域コーディネーター	歴史博物館	・学校の歴史資料室の活用
	神奈川県高等学校文化連盟	開港資料館 都市発展記念館 歴史博物館	・社会科クラブの生徒への研修・指導 ・県大会の共催、審査員の派遣
	近隣小学校	三殿台考古館 歴史博物館	・小学校の地域交流クラブ、土器づくりなど総合的な学習の時間等への支援
	職業体験受入れ	全施設	・中学校で行うキャリア教育への協力
他館との連携	県立博物館等	歴史博物館 開港資料館	・調査研究 ・企画展での協力

	神奈川県博物館協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・川崎市市民ミュージアム被災資料レスキュー
市民団体との連携	活動支援ボランティア	都市発展記念館 ユーラシア文化館	・活動支援ボランティアと連携して、企画展の土、日にワークショップを開催
	スタチュー・イベント	ユーラシア文化館	・スタチューパフォーマンズ協会と連携して、「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」の企画、オリジナルスタチューの制作
	NPO 法人都筑民家園管理実行委員会	歴史博物館	・NPO 法人都筑民家園管理実行委員会と連携し、「つながるマルシェ」や「遺跡フェスタ」をよこはま地域文化遺産デビュー・活用事業の一環で実施
	走らせよう！つづきブックカフェ実行委員会	歴史博物館	・走らせよう！つづきブックカフェ実行委員会に協力し、5/25（土）の「つなマル」開催時に、つづきブックカフェ号をエントランス前に駐車し、読み聞かせやカフェを実施
	よこはま芸術プロジェクト PASSAGE	歴史博物館	・よこはま芸術プロジェクト PASSAGE と連携し、「ボサノヴァと珈琲のタベ」、「夏の思い出 中田喜直の世界」などのコンサートを、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業の一環で実施
	神奈川今むかしガイド	歴史博物館	・歴史ガイドのボランティアを目指す市民の養成講座を開催（横浜 3 万年の歴史を 6 回にわけて実施）
	横浜郷土史団体連絡協議会	開港資料館 歴史博物館	・総会の事務局を務め、研修会、記念講演会等を共催
大学連携	大学等	ユーラシア文化館	・国立民族学博物館及び片倉もとこ記念沙漠文化財団との連携・協力により調査研究を行い、企画展を開催
		歴史博物館	・神奈川大学と連携して 2020 年に開催する「刺し子展（仮称）」について、共同で資料調査を実施し、展示計画を検討 ・東海大学と連携して 2020 年に開催する「緒形拳展（仮称）」について、共同で資料調査を実施
		開港資料館	・横浜商科大学主催の公開講座への企画協力、講師派遣

2 歴史博物館事業

8月から年度末までの改修工事による休館と年度末の新型コロナウイルス拡大の影響で、変則的な一年となりましたが、アウトリーチ展示の実施、遺跡公園工房での普及活動の展開、当財団が特別協力した『図説都筑の歴史』の刊行など多彩な事業を展開しました。

調査研究事業は全てのテーマを予定通り実施し、各テーマは今後の企画展に活かすなど、広く市民に還元していきます。常設展示室の活用については、再オープンに向けビデオシステムなど情報機器類のリニューアルや多言語化対応の準備を進めました。また常設展ガイド活動の充実を目的に、ボランティア向けの座学研修やバスツアーも含めたフィールドワーク研修を数多く実施しました。

企画普及事業は短い期間でしたが多様な事業を展開しました。企画展は2回開催しました。小学6年生の教育課程に合わせた「君も今日から考古学者！ー横浜発掘物語 2019ー」は、アクティブラーニングの要素を充実させ、わかりやすく伝える展示を試みました。関東の戦国争乱を扱った「“道灌以後”の戦国争乱」は、人気の高い戦国期の展示ということで、多くの歴史ファン・研究者が訪れました。とりわけ“戦国”というタームにマニア的な憧憬を持つ低年齢層へも今日的な媒体（SNS、ツイッター）を用い働きかけを行い、一定の集客効果を得ました。休館中には、外部でミニ展示を行うアウトリーチ活動を展開し、8か所の会場で展示会を開きました。

各種講演会や講座は市民との協働企画を実施し、市民感覚にあったラインナップとなりました。体験学習では、当日参加型ワークショップ「れきし工房」を遺跡公園工房において休館後も実施しましたが、3月は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

本年度も外部諸団体・組織、行政との連携に力を入れました。とりわけ北部地域との関係を深める普及事業を展開しました。企画から携わった『図説都筑の歴史』が11月に刊行されたのを始め、港北区の小机城を題材にした小学校での訪問授業も好評でした。休館中も地元根付く博物館という姿勢を打ち出せたと考えます。また浸水被害に遭った川崎市市民ミュージアムでの資料レスキュー作業への参加は、災害と文化財の危機管理を考える良い経験となりました。

市民協働では、ガイドボランティア・活動支援ボランティアの活動を、休館後も工房に拠点を移し継続しました。しかしながらやはり新型コロナウイルス感染の影響で活動停止を余儀なくされました。また博物館に集う関連団体とも引き続き連携事業を展開しました。横浜古文書を読む会との所蔵史料の読解は、その成果が館の紀要に毎年掲載される地道な事業です。学校連携に関しては、先の港北区小机の授業を始め、休館ゆえにアウトリーチ授業を充実させました。

施設の管理運営面では、大規模改修のため館を閉め、外壁、天井、エレベーター、パッケージエアコン、トイレの洋式化の工事を実施しました。また、2年目を迎えた文化庁の助成金事業「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」は、都筑区川和町の旧家の公開やミニ展示、イベントの実施など、その活動を館外に広げ今後の活動の新たな方向性を示すことができました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・寄贈・マイクロ撮影等で収集し、分類・整理するとともに良好な状態で保管するため、資料の燻蒸を行いました。

また、神奈川県博物館協会の博物館資料レスキューに職員を派遣し、昨年10月12日の台風19号により被災した川崎市市民ミュージアムの被害状況把握や収蔵品レスキューを行いました。

（1）資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 3 件 267 点 寄託 2 件 4,111 点	主な寄贈資料：割烹旅館入船関係資料、荏田宿柏屋写真 直江商店関係資料 主な寄託資料：都筑区川和町中山恒三郎関係資料、 笠木治郎吉絵画作品
実物資料の購入	1 件 1 点	主な収集資料：クーン・コモル商会横浜家具カタログ
マイクロ撮影	2000 コマ 製本 10 冊	主な資料：金沢藩士萩原家文書
資料の修繕・保存		上矢部富士山古墳出土埴輪・三の丸遺跡出土勝坂式縄文土器
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	1,942 件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	2 件 19 点	他機関における展覧会、および調査研究を目的に資料の貸出を行った。 ・神奈川県埋蔵文化財センター 「縄文と弥生・時代と文化の転機を生きた人々」 オオデラ遺跡出土資料 5 点 西之原遺跡出土資料 13 点 ・群馬県立歴史博物館 「ハート形土偶大集合・縄文のかたち・美、そして岡本太郎」 原出口遺跡出土筒形土偶 1 点
図書資料の公開	4,255 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 402 カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 46 件 161 点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H31.4～R2.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	(一)	(一)	(2)	7 (一)	7 (2)	1,985 (1,978)
工芸品 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	132 (132)
彫 刻 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	20 (20)
書 跡 (点)	(一)	(一)	(1)	(一)	(1)	54 (54)
典 籍 (点)	(4)	(一)	(44)	(一)	(48)	4,709 (4,709)
古文書 (点)	(一)	(一)	(244)	(一)	(244)	32,152 (32,152)
古記録 (点)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	55 (55)
絵 図						172

(点)	(一)	(一)	(一)	(3)	(3)	(172)
歴史資料 (点)	1 (一)	(一)	18 (1,988)	(一)	19 (1,988)	18,884 (18,865)
考古資料 (点)	(一)	(一)	(4,119)	(一)	(4,119)	24,535 (24,535)
民俗資料 (点)	(90)	(一)	249 (7)	4,104 (一)	4,353 (97)	17,575 (13,222)
図書文献資料 (点)	221 (125)	(一)	1,068 (1,602)	(一)	1,289 (1,727)	73,974 (72,685)
合 計	222 (219)	(一)	1,335 (8,007)	4,111 (一)	5,668 (8,229)	174,247 (168,579)

※ () 内は、前年度点数

(3) 図書閲覧室利用状況

※令和元年度は施設改修工事のため、期間は4/1-7/31

項 目	令和元年度	平成30年	平成29年
閲覧室利用者数(人)	4,287	7,193	7,449
複写申込件数(件)	141	536	470
複写枚数(枚)	1,700	5,887	4,560
レファレンス件数(件)	223	762	735

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を5月、6月、8月の計3回行なった。3月には燻蒸装置の点検を実施した。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。特に庫内環境の見直しにともない、清掃方法の確認、除塵マット設置場所の再検討を実施した。

(6) 川和町中山家の調査

横浜市認定歴史的建造物に認定された横浜市都筑区川和町「中山恒三郎家店蔵及び書院」について、現地に保存されている民俗資料や歴史博物館・開港資料館へ移動した同家の資料群の整理を、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業との共催事業として実施した。

11/28（木）－12/10（火）の同家蔵及び書院の公開の際には、その成果の一部を展示したほか、資料整理作業を公開した。

（7）博物館資料レスキュー

川崎市市民ミュージアムの博物館資料レスキューのために神奈川県博物館協会に職員を派遣し、収蔵庫からの歴史・民俗・考古資料の搬出や民俗資料の洗浄などの作業に当たった。

11月	11/14（木）・11/15（金）	2日間	延7名
12月	12/5（木）・12/6（金）・12/13（金）・12/19（木）・12/20（金）	5日間	延12名
1月	1/14（火）・1/17（金）・1/24（金）・1/31（金）	4日間	延8名
2月	2/6（木）・2/7（金）・2/14（金）・2/20（木）・2/28（金）	5日間	延6名
3月	3/5（木）・3/13（金）	2日間	延3名
合 計		18日間	延35名

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館活動の原資となる調査研究は、（1）基礎資料研究、（2）他施設と連携して行なう連携調査研究、（3）次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、（4）資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

（1）基礎資料研究

項 目	目的・意図
基礎資料研究	
大塚遺跡出土資料の研究（1／1年次）	当館所蔵の大塚遺跡出土土器に残された種実圧痕の圧痕調査を8・9月に実施した。 これまで活動支援ボランティアの協力で行ってきた調査の成果をまとめ、紀要24号にて報告した。
上矢部富士山古墳出土埴輪の研究（1／1年次）	当館収蔵の横浜市指定文化財、上矢部富士山古墳（戸塚区）の未整理破片について、調査時の図面や写真と対照して個体を同定し、可能なものについては注記・接合を行い、分類・復元・図化を行なった。その結果、円筒埴輪101個体、朝顔形埴輪2個体が新たに確認できた。円筒埴輪は3種類に分類できることがわかった。 朝日新聞文化財団の文化財保護助成の最終年度である本年度は、台帳を作成し、『横浜市歴史博物館調査研究報告16 横浜市指定文化財「上矢部町富士山古墳出土埴輪」の再整理報告書』を刊行した。整理作業を通じて得られた知見を総合し、次年度以降に開催する予定の企画展につなげていく。
市域所在の中世資料の調査（1／2年次）	本調査研究では、市域に所在する中世資料の再確認を実施する。またその他市域に所在する古文書・金石文等の資料について、近世・近現代の財団職員と連携し、調査と撮影を行う。 今年度は、博物館で調査をすすめている「関家文書」を引き続き継続し、とりわけ同家の所蔵する文禄3年の検地帳を分析することで、戦国期末の勝田村

	の様相を復元した。また「井上レン家文書」についても最整理を継続した。さらに伊藤宏見氏所蔵資料について、現地実見を行った。今後も未だ調査を行っていない他家文書に関しても実見・調査・撮影を行っていく。
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究（1／2年次）	横浜市指定・登録の民俗文化財を伝承してきた地域について民俗調査を実施し、伝承母体と地域性などを明らかにする。 本年度は、文化庁の文化遺産を活かした地域活性化事業を申請・活用しながら、青葉区鉄町に伝わる県指定無形民俗文化財「鉄の獅子舞」で使用される獅子頭の調査をおこなった。
テーマ研究	
近世後期矢倉沢往還と沿道の村々の研究（1／2年次）	当館寄託の荏田宿青木家文書のうち、近世後期の宿場、旅籠、治安等に関する文書を解説した。特に慶応2年の幕府御用にかかわる村入用帳には、四人の通行や武州一揆の影響が記されており、当該期の荏田宿および矢倉沢往還の治安や社会状況の一端が明らかとなった。
横浜地域の近世近代絵画の基礎的研究（1／2年次）	当館及び財団諸施設また市域の旧家には多くの絵画資料が存在するが、従来は歴史の傍証として使われることが多かった。これらを美術本来の資料として捉え基礎的データを作成する。 本年度は、横浜市文化財調査の一環で寶林寺（南区北永田）の宝物調査並びに整理を実施した。将来的には館蔵の禅宗画と合わせて横浜の禅林美術をテーマとした展覧会に結実するよう、今後も調査を進めていく。 また、これまで歴史資料として扱われてきた館蔵の浮世絵を対象に、美術作品として必要な収蔵目録情報を加える再調査を実施する。今年度は「五十三次名所図会」等の浮世絵作品について再調査を進め、作品情報の追加・修正を行った。
活字文化と横浜の出版文化に関する研究（1／2年次）	世界規模で進む活字史の研究成果を整理し、横浜における活字の発展の歴史を明らかにする。本年度は活字史研究家小宮山博史氏より寄贈された資料の再整理を行い、同コレクションを活用した平仮名・片仮名字形一覧の作業に着手した。今後成果を紀要等で報告したい。
明治～昭和初期の農具・荒物の広告データベースの構築（1／2年次）	近代以降の商品として流通する農具や荒物から昭和期家電製品までのデータベース構築にむけ、基礎情報の集積を図るため前年度に引き続き文字情報のテキストデータの作成を進め、合計1019件のデータとなった。 なお、本研究の成果の一部は、休館中のアウトリーチ事業として実施した出張ミニ展示「チラシ・カタログにみる昭和40年代」（会場：都市発展記念館、会期：8月21日～9月23日）にて公開した。
学校内歴史資料室に関する研究（1／2年次）	平成25年度から実施している学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用しながら、学校内歴史資料室の資料所在状況等を明らかにする。 文化庁の補助事業として平成30年度から開始した「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」における学校内歴史資料室に関する情報をまとめ、情報の公開を行う。本年度は本研究に関連して、1月11日に京都市学校歴史博物館において開催されたシンポジウム「学校資料の活用を考えるⅡ」において「学

	習指導要領の改訂と学校内歴史資料室」と題したパネル発表をおこなった。
市民協働調査研究	
土器の実験考古学的研究（1／2年次）	大塚遺跡出土宮ノ台式土器の台付甕について観察し、データ収集を行った。今後は製作実験で作成した台付甕や、観察データをまとめ、紀要等で報告したい。
市民協働古文書整理および解説（1／2年次）	武州金沢藩の目付日記（明治2年）の解説、川和村信田日記の解説を行った。武州金沢藩目付日記については、紀要にて成果を報告した。信田日記についてもいずれ活字化したいと考えている。
市民協働民俗調査（1／2年次）	昨年度に引き続き、民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを実施した。 4/14 青葉区奈良町、5/12 緑区長津田町・青葉区恩田町、6/9 青葉区恩田町、7/15 打ち合わせ、8/31 緑区長津田町・青葉区恩田町、9/15 緑区長津田町・青葉区恩田町、10/13 台風19号のため中止、11/10 緑区長津田町・青葉区しらとり台、12/7 雨のため中止、2/2 青葉区青葉台・桜台・しらとり台緑区西八朔、3/15 新型コロナウイルス感染防止のため中止

（2）連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施した。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
大塚遺跡の水田に関する研究（1／2年次）	平成31年4月に早濑川親水広場にてボーリング調査1本を実施した。 ボーリングコアから炭化物を科学分析に掛けたところ、思うような結果に至らなかった。 次年度に2回のボーリング調査についてまとめを行いたい。
ユーラシア概念をめぐる研究（1／2年次）	ユーラシア文化館と連携して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。 今年度は2回（1/31, 2/28）研究発表会を開催し、東部ユーラシア世界の理解を深め、共同企画展などの可能性を模索した。

（3）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「明治・大正ハマの街 新市庁舎建設地・洲干島遺跡」	横浜市歴史博物館・横浜都市発展記念館・（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターの3者で定期的（2か月に1回）に展示内容の協議を進め、その成果に基づいて都発・埋文センターを中心に秦野市水道局やとこなめ陶の森などで資料調査を実施した。
企画展「日本の古布（仮題）」	連携している神奈川大学日本常民文化研究所と共同で、青森市教育委員会や福島県立博物館、会津民俗館など資料所蔵機関への資料調査を行った。
企画展「俳優緒形拳とその時代—戦後大衆文化史の軌跡—（仮題）」	連携している東海大学文明研究所と共同で、緒形家の資料調査、資料整理を行なった。10月から11月には東海大学図書館の展示室で

	プレ展覧会を実施した。
特別展「横浜の仏像」展	市域の寺院に所蔵される仏教彫刻の出陳交渉、調査・撮影を実施した。また開催にともない（独法）日本芸術文化振興基金、（公財）花王芸術・科学財団への助成金の申請を行った。
令和３年度以降企画展調査	令和３年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

（４）資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	港南区旧家古文書	108	完了
2	港南区旧家古文書	1,293	完了
3	南区旧家歴史資料	17	完了
4	栄区旧家古文書	150	継続
5	港南区旧家古文書	260	継続
6	へボン関係資料	100	継続
7	活字関係寄贈資料	100	継続
8	港北区旧家民俗資料	221	完了
9	都筑区旧家民俗資料	4,104	完了
10	都筑区旧家民俗資料	62	継続
11	港南区旧家民俗資料	34	継続

（５）調査研究報告の刊行

『横浜市歴史博物館調査研究報告第16号』を刊行した。

今号は、朝日新聞文化財団の文化財保護助成を受け平成29年度より今年度まで実施してきた、横浜市指定文化財「上矢部町富士山古墳出土埴輪」の再整理調査をまとめ、報告した。

（６）紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第24号』を刊行した。今号以下を掲載した。

- 研究ノート ・ 横浜開港資料館・栗原清一旧蔵中世文書について
報告 ・ 大塚遺跡におけるレプリカ法による土器種実圧痕の同定
資料紹介 ・ 横浜最大級の縄文土器—小仙塚貝塚の遠部第3類土器—
・ 三殿台遺跡出土の鹿角製柄頭
・ 武相学園考古学部『横浜市金沢区寺前貝塚調査概記』
・ 「明治二年 武州金沢藩（六浦藩）目付日記」（2）



（７）調査への職員派遣

下記調査に職員を派遣した。

寶林寺宝物調査

名称・日程	派遣人数	内 容
横浜市文化財調査	3名	横浜市教育委員会による社寺等の総合調査

2/25・26（火・水）		宗教法人寶林寺（南区）所蔵歴史資料・絵画・典籍の調査
--------------	--	----------------------------

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室においては、展示ボランティアによる常設展示室の解説を実施したほか、毎月最終土曜日のラストサタデープログラムを実施し、土器パズルやスタンプ等を開催したほか、収蔵資料などを公開する「ミニ展示」を実施し、「学芸員トーク」のに際に展示解説を行った。

また展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施した。

休館中はスタディサロンのプログラムリニューアルや多言語化解説のコンテンツの準備を行った。

（1）保守点検・維持管理

展示物やビデオ機器類の保守点検、部分的な展示替えをふくむ維持管理、また修繕等を行った。

（2）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示ミニ展示の実施	特設コーナーを設置して、収蔵資料等を展示紹介する「ミニ展示」を実施した。 4/6-6/2 寄贈資料紹介「明治期海軍士官の服飾品 小杉家資料から」 4/27（土）展示解説（学芸員トーク） 6/15-7/31 寄贈資料紹介「資料でたどる活字の歴史 小宮山博史文庫から」 6/29（土）展示解説（学芸員トーク）
ボランティアによる常設展示解説	学校団体や来館者向けに展示解説ボランティアによる常設展示解説を行った。
エデュケーターによる学校連携プログラム	市内小中学校教員を対象にエデュケーターが常設展示を教材とした研修会や研究会を開催した。

（3）スタディサロンのプログラムリニューアル

スタディサロンの情報機器で提供しているプログラムのリニューアルの準備を行った。また次年度に予定している多言語化に対応するため、コンテンツの準備作業を進めた。

（4）常設展示室観覧者の推移（令和元年度目標数 33,400 人）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
元年度	4,037	582	3,690	8,309	27,627	35,936	52.6%	108日	332
30年度	10,334	1,348	6,148	17,830	50,524	68,354	96.2%	310日	220
29年度	11,038	1,684	6,447	19,169	51,877	71,046	102.0%	310日	229

4 企画展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。また、施設改修工事に伴う休館中は、各種のアウトリーチ事業に取り組みました。

(1) 企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「君も今日から 考古学者！－横浜発 掘物語 2019－」 4/7（土）～6/2（日）	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	21,672 人 （目標数 23,100 人） 1 日あたり 394 人	パッケージ展示としての実施であるが、昨年度実施した「弥生人に質問だ」で得た質問に回答する形で一部展示内容を変更した。 またアクティブラーニングの要素をさらにブラッシュアップして、土器の実物を触りながら観察する、「弥生人に質問だ」コーナーでは質問に素早く回答することに努めた。 毎年4～6月に社会科見学で訪れる小学6年生を主なターゲットとして、考古学の基礎と横浜の遺跡について、わかりやすく伝える展示を目指した。 関連事業 遺跡を掘ろう（擬似発掘体験） 21 回 555 人 VR 体験（史跡見学 VR） 22 回 1570 人 展示解説 5 回 68 人
企画展「“道灌以後”の 戦国争乱－横浜・上 原家文書にみる中 世－」 6/15（土）～7/31（水）	大人 600 円 高大 300 円 小中 100 円	8,454 人 （目標数 7,600 人） 1 日あたり 211 人	横浜市指定文化財「上原家文書」を中心に、太田道灌の子孫である太田康資・同資正の動向を、道灌死後の約100年にわたる関東戦国期の中で紹介した。太田道灌の名をタイトルに入れ、ポスター・チラシに太田資正の姿絵を使ったことで、両方のファンを取り込んだほか、イベントでは伊勢原手作り甲冑隊や葛西城戦士カツラギショーなどを開催して、若年層やファミリー層の来館を促した。 関連事業 講演会 3 回 450 人 見学ツアー（ウォーキング） 1 回 荒天中止 フロアレクチャー 3 回 175 人 イベント（伊勢原手作り甲冑隊／葛西城戦士カツラギ）計 2 回 366 人
横浜市新市庁舎完成 記念三館連携展示 プレ展示 12/15（月） ～12/27（金）			横浜都市発展記念館、横浜開港資料館、当館の三館及び埋蔵文化財センターが連携して行う横浜市新市庁舎完成記念展示について、PR を兼ねたプレ展示を現横浜市新市庁舎 1F ロビーにおいて開催した。



企画展「道灌以後の戦国騒乱」伊勢原手作り甲冑隊



市庁舎での新市庁舎完成記念三館連携展示プレ展示

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）				無料観覧者 （人）	合計 （人）	前年比	開催 日数	1 日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
元年度	3,559	375	1,892	5,826	24,300	30,126	48.4%	94 日	320
30 年度	8,620	845	4,034	13,559	48,608	62,167	92.8%	248 日	251
29 年度	9,120	962	4,433	14,515	53,184	67,699	100.4%	245 日	276

(3) 休館中のアウトリーチ事業

施設改修工事に伴う休館中に、館外で展示等を行うアウトリーチ事業を実施した。

名称/開催日	会場	事業内容
ミニチラシ・カタログ にみる昭和 40 年代 8/21 (水) - 9/10 (火)	横浜都市発展 記念館／横浜 ユーラシア文 化館	横浜都市発展記念館で開催した企画展「一枚の切符から昭和 のあの頃へ」と連携し、昭和 40 年代の家電・車・おもちゃな どのポスター展を、同館ロビーで開催した。
都筑区史関連展示 「大柵村絵図」 9/14 (土) - 9/30 (日)	都筑図書館	財団が協力して進めている都筑区史編さん事業と連携し、都 筑区大柵村の村絵図を展示した。
街頭紙芝居の世界 9/27 (金) - 10/15 (火)	横浜市八聖殿 郷土資料館	同館 2 階を会場とし、横浜市指定有形民俗文化財である街頭 紙芝居のレプリカを展示したほか、9/28 (土) には、担当学芸 員による講座と、街頭紙芝居の実演を行った。
令和元年度公開 川和 の歴史を川和でふれる 中山恒三郎家書院及び 諸味蔵 11/28 (木) - 12/10 (火)	都筑区川和町 中山恒三郎家 書院及び諸味 蔵	横浜市認定歴史的建造物である中山恒三郎家書院及び諸味蔵 の公開にあわせて、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業 と共催で整理を続けている歴史博物館の民俗資料、横浜開港 資料館の古文書、また現地で整理している中山恒三郎家関係 資料について、整理方法や整理成果の一部を公開した。11/30 (土)・12/8 (日) は資料整理についての公開講座、12/1 (日) には「Flowers 舞踏と音楽と食の総合芸術」を実施した。
横浜市指定登録文化財 パネル展 12/4 (木) - 3/31 (火)	横浜開港資料 館	横浜開港資料館 1F 旧館ロビーを会場に、横浜市が今年度新た に指定した文化財について作成したパネルを公開した。(新型 コロナウィルス感染防止のため 2/29 から休館・終了)
横浜の中世城郭	お城 EXP02019	埋蔵文化財センターと連携して、お城 EXP02019 にブースを設

12/21（土）・22（日）	パシフィコ 横浜	け、小机城・茅ヶ崎城などの市域の中世城郭について展示を行った。12/21（土）には、講座を開催した。
戸部小学校の 140 年と 横浜 1/15（水）－4/10（金）	横浜市史資料 室	横浜市史資料室と連携し、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業で整理した横浜市立戸部小学校資料室の資料を用いて、同校の 140 年と横浜の歴史のかかわりを紹介した。（新型コロナウイルス感染防止のため 3/2 から図書館業務が縮小となり休室・終了）
古代のムラの仏堂 －『図説都筑の歴史』より－ 2/27（木）－3/10（火）	都筑図書館	『図説都筑の歴史』で扱った都筑区蕨根不動原遺跡の仏教関係遺物を展示した。（新型コロナウイルス感染防止のため図書館業務が縮小となり、3/1 に 2 回予定していた講座は中止、3/2 から図書館業務が縮小となり休室・終了）



アウトリーチ事業 八聖殿「街頭紙芝居の世界」



お城 EXP02019「横浜の中世城郭」



中山家公開「Flowers 舞踏と音楽と食の総合芸術」



都筑図書館「古代のムラの仏堂」

(4) フリースペースでの展示

名称	開催日	事業内容
中田喜直の世界	6/29（木）－ 7/7（火）	7/6（土）に開催したクラシックコンサート in 歴博「夏の思い出～中田喜直の世界」にあわせ、横浜生まれの作曲家中田喜直のプロフィールとその活動を、楽譜や写真を交えて紹介した。

5 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように各種の歴史講座や体験学習、また市民や地域と連携したさまざまな事業を実施しました。休館中には、工房を活用してワークショップや野外施設の展示解説を実施し、市民の生涯学習活動を継続して支援しました。

（1）歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
学芸員トーク 4/27（土） 5/25（土） 6/29（土） 7/27（土）	12人 16人 4人 12人	「小杉家寄贈資料解説」（石崎） 「弥生人に質問だ！」（橋口） 「資料でたどる活字の歴史 小宮山博史文庫から」（石崎） 「河川を渡る！-中世の船橋について-」（阿諏訪）
民俗学講演会 5/19（日）	81人	相模民俗学会に共催して、民俗学講演会を開催した。 演題「千葉・神奈川の出羽三山信仰 —入場塚、供養碑・供養塚、行人塚を中心に—」 講師：松崎憲三氏（成城大学名誉教授） 会場：歴史博物館 講堂 参加料無料
歴史講演会 6/9（日）	170人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「見えてきた青海路 —もう一つのシルクロード—」 講師：前園実知雄氏（奈良芸術短期大学教授） 会場：歴史博物館 講堂 参加料 500 円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」 2/8（土） ～3/22（日）全5回	15人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルにした土器づくり講座を行った。実技は横浜縄文土器づくりの会が指導した。（新型コロナウイルス感染防止のため第4回 3/21 野焼き、第5回 3/22 実験は実施時期未定で延期） 会場：工房・遺跡公園体験広場 参加料：5,000円
講師派遣		各区や地域の郷土史団体、また博物館や大学の講座・講演会等に職員を派遣した。 5/25（土）「新政府軍と横浜の村々 — 鶴見区域を中心として」鶴見歴史の会 10/9（水）「鶴見川と水路」 生麦地区センター 11/13（水）「ペリー来航直前の世の中の動き 小岩井家文書嘉永5年御用留からよみとく」 本郷ふじやま公園管理運営委員会 11/25（月）「『金川日記』を読む—神奈川宿の知識人がみた

		開港前後の横浜― 青葉区奈良地区歴史の会 1/7 (火)「日本近代史演習ⅡB ゲストスピーカー」 中央大学 1/11 (土)「シンポジウム学校資料の活用を考える」 京都市学校歴史博物館 2/8 (土)「都筑郡家と地域の古代史」 横浜市荏田地域ケアプラザ 2/16 (日)「朝霧高原の茅を使った縄文・弥生住居の修復」 朝霧高原活性化委員会 3/15 (日)「絵画・地誌資料に見る“神奈川世界”」 横浜市神奈川図書館 (新型コロナウイルス感染防止のため中止)
--	--	---

(2) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験コーナー 4月～6月		無料	小学校団体が多い4～6月にかけて、体験学習室で火起こし疑似体験できるコーナーを設置し、活動支援ボランティアによるミニ体験を実施した。
当日参加型れきし工房		各プログラムで異なる	昨年度より、博物館1階のミュージアムショップでオリジナルものづくりキットを購入すれば、体験学習室において活動支援ボランティアのサポートを受けながら、ものづくりの体験ができる事業を開始した。 今年度は改修工事のための休館中(8月～3月末)も遺跡公園内の工房に場所を移し継続し、「当日参加型れきし工房」を定着させることができた。 期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日 ・小田原提灯 72人 ・まゆ細工 80人 ・まが玉 青田石 115人 ・まが玉 かつ石 649人 ・まが玉 デラックス 17人 ・ジャンボ勾玉 17人 ・あじろ網 小物入れ 230人 ・あじろ網 ポシェット 116人 ・あじろ網 トートバッグ 50人 体験者合計 1346人
事前申込れきし工房 (年度通算4日7回)	78人	各プログラムで異なる	小学生から大人までを対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを開催した。

			7/26（金） 万祝染 20 人 7/27（土） 万祝染 12 人 9/18（土） 土偶 29 人 12/15（日） 和風 17 人
竪穴住居に泊まろう		大人 2000 円 子供 1000 円	小学生を含む家族を対象に竪穴住居に宿泊する体験教室。7/14・15(日・月祝)を予定していたが雨天のためやむなく中止した。
出張ワークショップ	60 人	500 円	都筑地区センターに共催し、勾玉作りのワークショップを 10/22（日）に同センターで実施した。
体験広場野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、体験学習や会の事業として制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/5（日）、10/5（土）、3/21（土） (新型コロナウイルス感染防止のため 3/21 は実施時期未定で延期)

(3) 集客イベント等

項 目	開催日	参加者数	事 業 内 容
都筑阪急 モザイクモール観 覧車優待	6/2（日）	133 件	都筑阪急とタイアップし、横浜開港記念日来館者優待デーで、先着200名の来館者に特別チケットを配布し、モザイクモール観覧車を半額優待した。
開港記念日	6/2（日）	2,178 人	開港記念日を祝し、全館無料で公開したほか、スポーツ土器パズル・展示ボランティアによる解説・缶バッジワークショップ等を行った。
チボリ兄弟舎紙芝居	7/20(土)・21（日）	129 人	街頭文化祭と題し、夏季集客事業の一環として、紙芝居の普及を目的に実施した。
遺跡フェスター古 代・江戸・現代を融 合するそれぞれの 時代—	11/16（土）	3,200 人	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 遺跡公園の総合イベントとして、大塚遺跡は古代、民家園は江戸時代、芝生広場は現代を意識し、公園全体で一日楽しめる様々な企画を実施。
ラストサタデー プログラム	毎月最終土曜日 (4 回)		学芸員による「学芸員トーク」、土器パズル、スタンプのほか、4, 5, 6 月には正面玄関にて火起こし体験を実施した。
おもしろいぞ！紙 芝居	毎月最終土曜日 (4 回)	395 人	ラストサタデープログラムに併せ、当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、複製の実演を行った。

紙芝居秋祭り	11/23・24（土・日）	243 人	都筑民家園に出張して、横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居（複製）を中心に、実演を行った。
--------	---------------	-------	---



開港記念日「土器パズル」



都筑民家園「紙芝居秋祭り」

（４）地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、協賛事業、後援事業、受託事業等）

項 目	開催日	事 業 内 容
バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー（協力）	4/27（土）～ 7/31（水）	鶴見川流域ネットワークキングが主催する、鶴見川流域水マスタープランの普及を目的とした「バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー」について、スタンプ拠点として協力した。 主催：鶴見川流域ネットワークキング
つなマル・つづきブックカフェ（共催）	5/25（土）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 都筑区で活動している人々や団体が集え、つながる場所となるように、マルシェとつづきブックカフェ、人形劇等を、当館正面玄関前やエントランスホールで開催した。438人 主催：よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会
竪穴住居でプラネタリウム	9/21（土）	竪穴住居の中でプラネタリウムを投影した。
日本を知ろう『五節句』菊節句	9/28・29 （土・日）	都筑民家園を会場に重陽の節句に係わる展示とギャラリートーク、またトークと節句料理の試食を組み合わせた催しを実施した。
都筑区史への連携・協力		令和元年 11 月に刊行した「図説 都筑の歴史」の編纂事業に財団の他施設と共に協力した。
京浜急行電鉄への協力		京浜急行電鉄花月園前駅、仲木戸駅の駅名変更に伴い、設置される歴史パネル内容の監修協力を行った。
関家住宅の公開	11/30（土）	横浜市教育委員会生涯学習文化財課に協力し、国指定重要文化財「関家住宅」の公開を行った。当日の観覧者への解説のほか、解説シートを作成した。
NPO 法人 神奈川区い	9/28（土）	歴史ガイドのボランティアを目指す市民の養成講座を実施

まむかしガイドの会との連携（共催）	10/26（土） 11/23（土） 12/14（土） 1/18（土） 2/15（土）	した。横浜3万年の歴史を6回にわけて勉強した。 主催：NPO法人 神奈川区いまむかしガイドの会
金沢区「むかし体験」訪問歴史授業の受託		金沢区から、金沢区内の小学校に保存されている民俗資料を活用した訪問授業実施事業を受託した。（3月に予定していた西金沢学園小学部は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校が休校となり、中止）
港北区小机城址の教育普及業務の受託		港北区から、小机小学校、城郷小学校、城郷中学校における小机城址をテーマとした普及訪問授業事業を受託した。 12/13（金）に小机小学校で実施した。（3月に予定していた城郷小学校・城郷中学校は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校が休校となり、中止）



つなマル・つづきブックカフェ



初夏のバロックコンサート

（5）エントランスホールコンサート等の実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業や関連団体主催によるコンサートを、エントランスホールを会場として開催した。

事業名/開催日	事業実績等
ボサノヴァと珈琲のタベ 5/18（土）	＜よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業＞ 演奏者：臼田道成 来場者数：98人
初夏のバロックコンサートin歴博 6/22（土）	指揮：梶山 泰俊 演奏：湘南バロック・アンサンブル 主催：横浜歴博もりあげ隊 来場者数：110人
クラシックコンサートin歴博 夏の思い出 中田喜直の世界 7/6（土）	＜よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業＞ 出演者・演奏者：三林輝夫（テノール）、金子美香（メゾソプラノ） 河野紘子（ピアノ） 来場者数：132人

(6) かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある竪穴住居について、定期的、長期的なメンテナンスを行うため、「材料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成 29 年度から事業を開始した。平成 30 年度からは文化庁の助成金を継続して受け、実施している。令和元年度は、以下の事業を実施した。

項 目	実施日	参加者数	事 業 内 容
ボランティアの募集	10 月		チラシを作成し、ボランティアの募集を行った。
活動準備	10 月 20 日	2 名	修繕用具の清掃、メンテナンスを行った。
ボランティア研修	11 月 10 日	1 名	応募いただいたボランティアへの研修を行った。
復元建物の修繕	11 月 16 日	6 名	Y-2 号住居の修繕を実施した。遺跡フェスタと同日に実施しフェスタ見学者への説明も行った。
朝霧高原茅場での活動	12 月 7 日	5 名	ボランティア 2 名の茅刈研修と修繕材料の茅の確保を行った。
報告会	2 月 9 日	21 名	かやぶき屋根プロジェクトの活動について異なる立場の 4 名がそれぞれ報告を行った。
ガイドブックの作成	2 月		次年度以降のボランティアや参加者のためのガイドブックを作製した (4C16P)。
復元建物の修繕	3 月 1 日	12 名	前回と引き続き Y-2 号住居の修繕を行った。

(7) ボランティアの活動支援

項 目	事 業 内 容
展示解説ボランティア	・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。 当事業は、ガイド研修を通じて登録者の歴史学・考古学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。 ① ガイド登録者数：80 人 ②登録期間 2 年間（但し、希望者は延長更新可） ③基本ガイド時間 遺跡公園 小学校 6 年団体 45 分間 一 般 60 分間 都筑民家園 小学校 3 年団体 20 分間 常設展 見学者の要望に応じて実施 ④特別ガイド 6/2 開港記念日ガイド
活動支援ボランティア	・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラム、その他の集客イベントなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。 ①登録者数：56 人 ②活動実績 ・4～6 月学校団体対応 火起こし疑似体験のべ 434 人 ・4、5、6 月 火起こし体験(各月 1 日、計 3 日間) 19 人

	・ラストサタデープログラム体験イベント（スポーツ土器パズル）（4月～7月） 22人 ・企画展「君も今日から考古学者」VR体験（4月～6月） 51人 ・開港記念日（土器パズル）（6月） 8人 ・土器圧痕調査（8月～9月） 17人 ・わんぱくホリデーまが玉（10月） 4人 ・都筑区民まつり（11月） 10人 ・れきし工房（4月～2月） 327人 （その他、研修や都市発展記念館・ユーラシア文化館での活動有り）
展示解説ボランティア 研修の実施	今年度は8か月の休館中に集中的に研修を実施した。 <館外研修会> ・9/10 登呂遺跡他 14人 ・10/23 群馬県博他 39人 <研修講座等> ・8/31「原始Ⅱ」「ガイドマニュアルの改定と新学習指導要領への対応について」 53人 ・11/30「牛久保村と長沢家」「旧長沢家住宅と横浜市域の民家」 39人 ・12/21「四点の栗原清一旧蔵中世文書について」「企画展『戊辰の横浜』余話」 40人 ・1/11「横浜開港と生糸貿易の幕開け」「横浜案内記と地図」 37人 ・2/15「美術史入門」「外国人のお客様に対する日本文化・宗教の紹介」 36人



工房で開催した研修講座

展示解説ボランティア活動実績

項 目		令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
		遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡	常設
活動実績	ガイド実施日数（日）	250	106	301	305	309	306
	解説回数（回）	891	131	1,105	678	1,091	572
	1日平均解説回数（回）	3.22	1.25	3.54	2.21	3.53	1.87
	参加者数（人）	19,605	328	23,155	2,120	23,019	1,747
	団体対応（件）	215	2	272	22	275	16
	団体のうち学校数（校）	194	—	220	—	218	—

(8) 学校連携事業の実施

小学校4年の「吉田新田」や小学校3年の「昔の暮らし」、土器づくりなどについての訪問授業を行いました。また本年は港北区から委託を受け、小机城址普及の出張授業を実施しました。

事業名／開催日	事業内容等
臨時開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し（4日間）、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田訪問授業 8校 678人	南戸塚小 98人、東品濃小 75人、都筑小 138人 太田小 43人、永谷小 85人、蒔田小 70人 下田小 119人、藤塚小 50人
学校資料室への訪問授業等 3校 369人	万騎が原小 54人、森の台小（於川和小） 150人 茅ヶ崎東小 165人（於川和小）
総合授業 資料整理の仕方 1校 35人	石川小 35人
金沢区委託 「むかし体験」訪問歴史授業 14校 974人（1校中止）	能見台小 68人、釜利谷小 69人、能見台南小 96人、 大道小 53人、並木第一小 68人、釜利谷東小 69人、 並木第四小 49人、小田小 126人、金沢小 66人、 高舟台小 75人、六浦小 53人、八景小 58人、 文庫小 74人、並木中央小 50人
港北区委託 小机城址普及出張授業 1校 108人（2校中止）	小机小 108人 ※城郷小学校、城郷中学校は新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校が休校となり、中止
出張土器づくり指導	神橋小 36人（10/3 土練り・10/16 成形・11/6 野焼き） 新鶴見小 31人（11/20 成形・1/9 野焼き）
教職員対象の吉田新田学習会	授業での学習ポイントを説明 7/30（火）
学校団体の博物館見学申込システムの運用と開発	6学年の校外事業に伴う見学、3、4年生の団体見学・訪問授業に対応した申込システムを運用した。

学校団体利用の推移

項 目	令和元年度	平成30年度	平成29年度
学 校 数（校）	278	361	362

うち小・中学校利用数

項 目	令和元年度	平成30年度	平成29年度
学校数（校）	262	330	331
児童・生徒数（人）	24,440	28,603	28,855

(9) 市民諸団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの

会」の4団体は、博物館と連携して定期的な活動を行っています。定期的な活動以外には、一般公募の講演会・講座の共同開催なども実施しています。また、博物館の支援、博物館との協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」は、その活動の幅を広げていました。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	毎月2回の講座の開催と、有志による「下読み会」の実施 ・「下読み会」の成果は『博物館紀要』の資料紹介として公開 ・講演会の実施 夏季特別講演会 7/26（金） 当館講堂 講師：酒井一輔氏（聖心女子大学専任講師）「偉人のうらがわ—自筆書状からみる人間・伊能忠敬—」 参加者 186人
「横浜古代史料を読む会」との協働	月1回の『続日本紀』講読講座の開催
「横浜縄文土器作りの会」との協働	・実験考古学講座「縄文土器づくり」全3回の技術指導を実施 ・訪問土器作り授業の実施（神橋小、新鶴見小）
「横浜さいかちの会」との協働	・「日本書紀」を読む講座の開催 ・ガイドボランティア研修（座学・フィールドワーク）の連携実施 座学（6/23）、フィールドワーク花見山遺跡他（12/22） ・企画展「道灌以後の戦国争乱」関連パネル展の解説 7/20（土）～31（水） 企画展示室前廊下 ・見学ツアーの実施
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・開港記念日（6/2）におけるワークショップの協力 缶バッチ作りワークショップの実施 ・講演会の実施 6/9（日） 当館講堂 講師：前園実知雄氏（奈良芸術短期大学教授）「見えてきた青海路—もう一つのシルクロード—」 参加者 170人 ・エントランスコンサートの実施 6/22（土） エントランス 「初夏のバロック・コンサート in 歴博」 参加者 112名

（10）実習・研修の受け入れ

今年度は、施設改修工事に伴う休館のため、博物館実習や社会研修等の受け入れについては取りやめました。

（11）広報広聴

項 目	事 業 内 容
広報	市営地下鉄5駅構内の広報案内看板による広報 博物館近隣の広報案内看板による広報

	インターネットによる広報 都筑区民まつりへの出店参加による広報 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信 全国博物館施設、市内公共施設、学校に向けた広報 マスコミ各社への情報提供 センター北駅1番出口広告掲示板（8ヶ所）による広報 市広報誌による広報 新聞・雑誌・ラジオ等マスコミやSNSへの有料広告掲出
市民ニーズの把握	企画展など当館が企画した行事でアンケートを実施した。
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、ガイドボランティアの募集等にインターネットを利用した催事申込システムを運用した。

(12) 出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内（年2回） 夏休みイベント・休館案内パンフレット 貸出施設案内パンフレット 学校向け利用申込案内パンフレット
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュースNo.47 6,500部作成 No.48 8,000部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第28集 700部作成 横浜市歴史博物館紀要 第24号 800部作成 横浜市歴史博物館調査研究報告 第16号 700部作成

6 よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業（定款第4条第1項第1号②）

公開承認施設である当館を中核館として、「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会」を組織し、文化庁からの補助金を受け、以下の事業を実施した。

項 目	事 業 内 容
①地域文化遺産交流拠点事業	地域文化遺産交流拠点事業としては、平成30年度に引き続き所有者や関連する行政部局と連携を図りながら、国指定重要文化財建造物関家住宅、横浜市認定歴史的建造物中山恒三郎家店蔵の公開および保管文化財の整理を行った。中山恒三郎家については整理した資料の展示や整理現場の公開に加えて、観光拠点事業の舞台として活用するイベント「パフォーミングアーツ」を開催することができた。これは当実行委員会が進めるB級の文化遺産の発掘・整備・活

	用という流れを実現した象徴的な取り組みであり大きな成果といえる。 その他の主な成果は次の通りである。学校内歴史資料室については、実行委員会構成団体である学校内歴史資料室連絡会による定期的な連絡会が開催され、これまでに整備した資料室の運営に携わる学校・地域関係者の情報共有が一層はかられたほか、令和2年度から完全実施される新しい学習指導要領に基づく学校内歴史資料室の活用方法などについての活発な議論がなされた。また、大手企業の協力を得て、B 級文化財とも言える未指定文化財をモチーフとした未就学児童向けのペーパークラフトキットの開発を進め製品化を果たした。中核館近隣保育園等に今後配布予定である。
②観光拠点化事業	中核館および大塚・歳勝土遺跡公園や都筑民家園を舞台としたユニークベニューイベント「日本を知ろう」として平成30年度より継続している菊節句・お月見ライブ・生け花、ボサノヴァ・日本歌曲の各コンサートを多数開催したほか、新たな取り組みとして、復元竪穴住居を活用したプラネタリウム上映、映画上映会を開催した。また前年に整備した地域文化遺産交流拠点である中山恒三郎家の公開活動にあわせたパフォーミングアーツとして、コンテンポラリーダンス・サクソフォン・カルテットによる屋外ライブも開催した。実施にあたっては、育成に努めている企画運営団体が担当し、実行委員会がこれを支援した。場所やジャンル、出演者、運営団体のさまざまなクロスオーバー・融合が想定や期待以上の成果を生み出した。
③普及啓発事業	本事業では、今年度は中核館の休館にともない、展覧会等の開催ができなかったため、地域文化遺産交流拠点や実行委員会構成団体のスペースを利用する形で、小規模な展覧会を開催するアウトリーチ活動をおこなった。テーマは、「チラシ・カタログにみる昭和40年代」（横浜ユーラシア文化館／8/21（水）-9/10（火））「街頭紙芝居の世界」（横浜市八聖殿郷土資料館／9/27（金）-10/15（火））「令和元年度公開 川和の歴史を川和でふれる 中山恒三郎家書院及び諸味蔵」（中山恒三郎家／11/28（木）-12/10（火））「戸部小学校の140年と横浜」（横浜市史資料室／1/15（水）-4/10（金））などで、多くは個人コレクションをはじめ地域文化遺産交流拠点事業で整備した資料に、観光拠点事業で育成した人材が活躍する関連事業などを組み合わせたものである。
④広報・情報発信事業	広報・情報発信機能面では、平成30年度から先送りとなっていた本事業の公式ウェブサイト・SNS を本年度に開設することができたこと、大手ブランドの製作経験のある編集担当によるフリーペーパー形式のガイドブック「都筑文脈」を刊行することができたこと。

	この2点が大きな成果である。 ウェブサイト： https://culturalheritage.yokohama-history.org/ Twitter：https://twitter.com/CHofYokohama 本事業は、公式ウェブサイトによるイベントガイドの提供など予定と期待通りの成果を生み出すことができたが、社会的な認知度を計測する定性的な評価軸となるインターネット上の検索結果数については、本事業のウェブサイト開設を含む広報・情報発信事業が平成30年度では先送りとなったため、令和元年度より取組を進めた。SNSを含めた数値の把握、分析は進行中であるが、令和2年4月現在の検索ヒット数はおよそ77万1千件であり、ウェブサイト開設1年目の目標としていた50万件を上回ることができた。
総括	5年間という期間をもって進行する本事業における成果として、平成30年度～令和元年度においては、地域文化遺産交流拠点やそれに付随する文化遺産の整備をおこなったこと、数々のイベントを通じた新たな集客を実施できたことが定量的な成果としてあげられる。加えて本事業が目的とする文化遺産にかかわる人材・団体の育成面においても、事業イメージ図に示した面的な広がりに関しても新たな団体や企業との「つながり」を継続して構築することができた。 また、文化遺産の観光資源としての活用促進にともなう、文化遺産の差別化（文化財格差）という社会的課題を受け、文化財的価値は別として、観光や地域経済の活性化にすぐにはつながらない、B級や原石といった文化財を対象として構築した活用モデルをさらに深化させることができた。 文化庁ウェブサイトに平成30年度事業例として掲載されて以降、国立博物館や県立博物館等からの視察や講演依頼の問合せを受けた。その内容は、本事業が対象とする文化財としての位置付けがまだ定まっていない、あるいは文化財的価値が高くては観光資源としては劣る文化遺産に関する興味関心を前提にしており、このような関心の広がりも本事業の成果・効果といえる。文化遺産に差がつくこと自体はいたしかたないことであるが、その差を踏まえて日本の文化遺産総体を底上げし、内外に発信する取組が現在求められている。そのような関心を持ち、課題や今後の方向性を共有したいという自治体や施設（クラスター形成を目指す他の実行委員会も含む）から情報交換（提供）のオファーがあった。今後交流を深め、共に取組を進めていきたい。 ●視察・ヒアリング対応自治体・博物館等：九州国立博物館・北九州市立いのちのたび博物館（自然史・歴史博物館）・東田ミュージアムパーク実行委員会

	●本事業に関する講演依頼等：京都府京都文化博物館・京都市学校歴史博物館 成果や効果の定性的な指標・観点であり、社会的な認知度を計測する評価軸となるインターネット上の検索結果数については、本事業のウェブサイト開設を含む広報・情報発信事業が平成30年度では先送りとなったため、令和元年度より取組を進めた。 今後も、実施した事業の各種情報についてはウェブサイトを通じて発信し、全体的な検索ヒット数をあげ、社会的な認知度を高めていきたい。
--	--

7 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数 1,942 件
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数 149,892 件
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用して博物館の展示や催し物の紹介、また体験学習、講座・講演会など、様々な情報を発信した。

8 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（1）施設改修工事

今年度は、横浜市による長寿命化工事が実施された。外壁改修工事、エントランス、コロネード天井改修工事、エレベーター改修工事という大規模改修工事であり、8月から3月末まで8か月間の休館を伴うものであった。工事期間の館内環境の維持のための工事業者との工程確認、調整、近隣への配慮等に努めた。

＜工事項目＞

1. 外壁改修工事
2. エントランス、コロネード天井改修工事
3. エントランス天井照明設備他改修工事
4. エレベーター3 基改修工事
5. パッケージエアコン改修工事
6. 和式トイレの洋式化、及び洗面台水栓の改修工事
7. 歴史博物館野外施設工房の屋上防水工事

（２）来館者対応業務

長期休館後の再開にあたっては、さらなる市民サービスと効率性の向上を図るため、これまでの受付等の配置と機能の見直し、キャッシュレス対応の導入、委託業務の範囲を拡充することとし、公募型プロポーザル方式により業者選定を行った。

（３）歴史博物館等の維持管理

長期休館でなければ実施できない企画展示室の壁面クロスの全面張替え、配線ダクトの交換、省エネルギーとメンテナンスフリー化を目的としたスポットライトのLED化等を実施した。

・壁・天井改修工事にともなう脚場の組立



管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 講堂、研修室の貸出 貸出施設案内パンフレットの作成・配布 ＜主な修繕＞ ・企画展示室 壁面クロスの全面張替え、配線ダクトの交換、 スポットライト LED 化、防火扉修繕工事 ・館長室、役員室天井照明 LED 化 ・空冷チラー冷媒漏れ修繕工事 他

(4) 講堂・研修室利用の推移

項 目		令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	15,930	20,980	24,726
	利 用 件 数 (件)	119	212	230
	うち有料貸出件数 (件)	13	45	62
研修室	利 用 者 数 (人)	2,425	6,598	5,636
	利 用 件 数 (件)	83	231	214
	うち有料貸出件数 (件)	52	133	115

(5) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		52,506	57,581	57,732
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	47,999	55,081	55,402
	工 房 (人)	4,507	2,500	2,330

9 収益事業（定款第4条第1項第2号）

ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。ミュージアムショップでは、休館中に工房でのキットの販売や出版物の通信販売、また新年度に向けた商品開発を行いました。

(1) ミュージアムショップ

- ・当日参加型れきし工房の実施に合わせた「オリジナル工作キット」商品の拡充、土器づくり教室などで実施する野焼きで作成した土製品など、事業と関連させた商品開発を行った。
- ・火起こし器、絵葉書、クリアファイル、企画展図録等のオリジナル商品のほか、各種商品を販売した。
- ・出版物の通信販売を行った。
- ・休館中に遺跡公園内の工房に場所を移した当日参加型れきし工房に対応するため、「オリジナル工作キット」の販売をした。
- ・新年度に向けて、都筑区原出口遺跡出土の筒型土偶のペーパークラフトキットや、小机城と茅ヶ崎城の御城印を、新商品として開発した。



(2) 駐車場

歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。(休館中は休止)

(3) 自動販売機

施設利用者の利便を図るため、自動販売機を設置した。(休館中は休止)

<各事業の推移>

項 目	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
ミュージアムショップ売上 (千円)	5,078	9,781	8,348
駐車場利用台数 (台)	1,862	5,473	5,706
駐車場料金収入 (千円)	847	2,270	2,344
自動販売機手数料収入 (千円)	120	328	322

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
1 資料収集保管事業	資料購入・寄贈による資料収集を行うとともに、マイクロフィルム制作などによる収集活動を着実に進めた。収集資料の整理・保管・データ入力を進めた。保管業務に関しては IPM を強化し資料の保全につとめた。また、異色の活動として浸水被害を受けた川崎市市民ミュージアムの資料レスキューを関連団体と共同して実施した。	A
2 調査研究事業	予定どおり実施した。基礎資料に関する調査研究、テーマ別の調査研究、市民協働の調査研究などを実施し、新たに美術分野の調査研究も開始した。その成果は報告書として刊行・公開し、企画展にも活用した。	A
3 常設展事業	ミニ展示の充実や常設展示解説ボランティア活動の活発化を図った。休館中は展示解説ボランティア研修の充実や再オープンに向けた情報機器の刷新、多言語化対応の準備を進めた。	B
4 企画展事業	当初計画した企画展は予定通り実施した。休館中は外部でミニ展示を実施するアウトリーチ活動を展開した。年度末に予定したものは新型コロナウイルス拡大の影響で中止した。	A
5 企画普及事業	体験学習室では昨年に引き続き、ものづくりが体験できるワークショップ「れきし工房」を実施した。	A

	市民協働として、ボランティアが活動の幅を広げ、集客イベント等で活躍した。またコンサートや講演会など市民団体との協働事業を実施した。休館中は「れきし工房」やボランティア活動を遺跡公園の工房を拠点に展開した。	
6 よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業	2年目を迎えた文化庁助成事業「よこは地域文化遺産デビュー・活用事業」は館内、遺跡公園、都筑民家園を会場に多彩な事業を展開し、交流拠点の整備を着実に進めた。旧事業で資料の整理・公開を実施した都筑区の旧家（中山家）では、当館の休館中に資料・家屋の公開と音楽・舞踏のイベントを開催し、文化遺産活用の幅を広げた。	S
7 情報事業	昨年に引き続き SNS を積極的に活用し、情報発信を行った。展覧会情報など静的な情報の HP に対して、リアルタイムな情報発信が行える SNS の強みを活かし、館活動全般を紹介した。	A
8 施設維持事業	8月から館を閉め大型改修（外壁、天井改修、天井照明、エレベーター、パッケージエアコン、トイレの洋式化、野外施設工房の屋上防水）を実施、適切な施工管理を行い、無事改修を終了した。 また、再開館に向け、受付等の配置と機能の見直し、キャッシュレス対応の導入、委託業務の範囲を拡充することとし、公募型プロポーザル方式により業者選定を行った。	A
9 収益事業	当日申し込み型「れきし工房」に合わせたオリジナルキット販売を休館中も工房で継続した。また当館所蔵の土偶をモデルにしたペーパークラフトや御朱印の古城バージョン「御城印」（小机城・茅ヶ崎城）などの商品開発を行い、再オープンに備えた。	B

3 開港資料館事業

開港資料館では、2019 年が開港 160 周年にあたることから、昨年度の企画展示「浮世絵でめぐる横浜の名所」を皮切りに、古写真を通じて開港当時の横浜を紹介する「カメラが撮らえた横浜」、当時の村人の視点から横浜開港を捉えた「開港前後の横浜」と、開港 160 周年記念展示を連続して開催しました。

「開港前後の横浜」では、架空の村人が対話形式でわかりやすく内容を解説するあらたな手法を試み、また親子で参加できる講座も開催して、参加者から好評を得ました。

2019 年は横浜市中消防署の開設 100 周年でもあり、中消防署の全面協力とあわせて、中消防署開設 100 周年記念事業実行委員会からも 200 万円の寄附金を得て、企画展示「横浜の大火と消防の近代史」

を開催しました。さらに横浜市新市庁舎の完成記念として、都市発展記念館・歴史博物館との3館連携展示を企画し、市役所の歴史に焦点をあてた「町会所から市役所へ」を開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2月末から臨時休館となりましたが、休館中の対応として、館長による展示解説を動画で撮影し、HP上で公開する予定です。

調査研究事業では、財団施設との連携研究事業に加えて、新規に外部研究者との共同研究事業を立ち上げました。その成果は今後の企画普及事業に還元していきます。

市役所や各種団体との連携事業では、市民局と連携して、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国代表チームの事前キャンプに関するパネル展を開催し、またラグビーワールドカップ2019横浜大会の記念事業として、旧館ホールで「ウェブ・エリス・カップ」を展示しました。また地域の事業者が主催する「横浜セントラルタウンフェスティバル Y160」に都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに参加し、イベント当日の2日間は無料開館して多くの参加者を得ました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を受けての臨時休館の影響もあり、年間を通じての入館者数は目標の9割にとどまりました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開（R1.4～R2.3）

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈5件 424点 寄託1件 1点	収集資料：前田家所蔵資料、捜真女学校校舎絵葉書、サムエル・ヘボン旧蔵アルバムほか
資料の購入	34件 65点	収集資料：本牧本郷村名主関係資料ほか
古文書のマイクロ化 ほか	1件	主な複製（マイクロ撮影）資料：今井清一文庫
資料の分類・整理	古文書など 約1,000点	中山家を中心に収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。
閲覧室における資料 の公開とコピーサー ビス	閲覧室利用 1,780人 コピー枚数 23,525枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料のデジタル化を行った。 主な資料：五味文庫幕末期資料（一部）など
複製資料の提供	提供件数479件 1,594点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
実物資料の貸出	貸出件数3件	他の博物館（苫小牧市美術博物館・山梨県立博物館他）へ実物資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H31.4～R2.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料 (点)	— (—)	1 (2)	— (—)	— (—)	1 (2)	15,234 (15,233)
文書・記録 (点)	1 (6)	1 (—)	424 (24)	— (—)	426 (30)	84,608 (84,182)
新聞資料 (点)	— (—)	2 (—)	— (—)	— (—)	2 (—)	9,948 (9,946)
絵画・写真等 (点)	— (—)	3 (—)	— (1)	1 (—)	4 (1)	33,627 (33,623)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	51,408 (51,408)
文献資料 (点)	68 (146)	1 (—)	— (—)	— (—)	69 (146)	58,283 (58,214)
合 計	69 (152)	8 (2)	424 (25)	1 (—)	502 (179)	271,096 (270,594)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製資料の提供実績

項 目	令和元年度	平成30年度	平成29年度
出版社 (一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	479件	511件	589件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	令和元年度	平成30年度	平成29年度
閲覧室利用者数 (人)	1,780	2,040	2,579
複写申込件数 (件)	903	1,080	1,240
複写枚数 (枚)	23,525	23,935	25,860
レファレンス件数 (件)	1,975	2,251	2,815

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
中性紙資料保存封筒作成	収蔵資料を長期間にわたって保存するため、文化財専用の封筒の製作をおこなった。
資料修復	破損した収蔵資料の修復をおこなった。「アーネスト・サトウ旧蔵アルバム2点」ほか。
環境検査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。5回/年

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者と協力しておこないました。また、昨年に引き続き、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の3施設合同で、「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」を行いました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史	①ブレンワルド日記(幕末のスイス人の日記)の勉強出版からの出版に向けて準備を進めた(2020年夏に刊行予定)。 ②絵地図や浮世絵をもとに開国・開港期の横浜を分析し、横浜開港160周年の連載企画として、横浜港振興協会の刊行物へ原稿を執筆した。 ③絵地図・古写真を中心とした館蔵資料の分析をもとに、第4回企画展示「町会所から市役所へ」の全体構成を企画した。
横浜近代欧米関係史	①館蔵海外関係資料から横浜ゆかりの欧米外国人が所蔵していたアルバムの分析をおこない、その成果をもとに令和2年度の第1回企画展示「コスモポリタンたちの足跡」を企画し、展示図録を執筆した。 ②ラグビーワールドカップ2019横浜大会の開催にあわせて、居留外国人によるフットボール関係資料の調査をおこない、成果をミニ展示「ラグビーと幕末・明治の横浜」として公開し、あわせて『開港のひろば』145号に報告した。また中区山下町公園に設置された「ラグビー発祥地 横浜」記念碑の碑文監修に協力した。 ③外部機関（東大史料編纂所）とのイギリス外交文書他のデータ検索閲覧システム連携事業を継続した。 ④館蔵海外関係資料の現状調査をおこなった。
横浜幕末維新期の社会・生活史	①横浜の庶民生活と政治社会情勢について、開港前後(1858～1860年)に焦点を絞って古文書の調査とその分析をおこない、企画展「開港前後の横浜」、同展図録『開港前後の横浜』、『開港のひろば』145号・146号、「町会所から市役所へ」展にて報告した。 ②近世・幕末維新期の日本とイギリスとの関係について、横浜の社会・生活との関わりを視野に入れつつ調査研究をおこなった。成果は2021年度企画展「日英関係の原点」にて報告する。 ③社会生活の舞台となった幕末維新期の開港場横浜の都市空間について地図資料から分析を実施するとともに、外部研究者との連携を進めた。また、当館所蔵の地図資料のデジタル化を実施し、その成果の一部を『開港前後の横浜』で報告した。 ④外部研究者と共同して当館所蔵の海運関係古写真の悉皆調査を実施し

	た。また、海外の大学機関所属の研究者による当館所蔵古写真調査に対して招待状を発給し、共同で調査をおこなった。
横浜近世・近代社会経済史	①館蔵資料の古写真をもとに開港場とその周辺の景観分析をおこない、第1回企画展示「カメラが撮らえた横浜」を企画した。あわせて成果を『開港のひろば』144号・145号に執筆した。 ②昨年度第4回企画展示「浮世絵でめぐる横浜の名所」での成果をもとに、開港160周年記念の連載を企画し、横浜商工会議所の会報『YOKOHAMA 商工季報』春号・夏号に「絵で振り返る横濱」を執筆した。
歴史情報の集積と研究	①雑誌・新聞の整理作業をもとに、インターネット公開システム「情報館」で資料公開をおこなった。 ②館蔵資料その他資料調査を（豊橋美術博物館、岸千鶴子家資料等）実施し、その成果をミニ展示として公開したほか、『開港のひろば』145号・146号に執筆した。 ③創刊130年を迎える横浜貿易新報社について資料調査とミニ展示の準備を進め、成果を『開港のひろば』147号に執筆した。 ④全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会を通じて、全国の歴史資料保存機関の現状と課題の把握をおこなった。
横浜近現代政治社会史	①近代横浜消防史について調査研究をおこない、その成果をもとに第3回企画展示「横浜の大火と消防の近代史」を企画した。都市発展記念館・市史資料室との連携研究会での研究報告のほか、企画展の展示図録に論文を掲載し、『開港のひろば』146号・147号にも執筆した。 ②関東大震災及び近代横浜災害史に関する調査研究をおこない、次年度企画展に向けて準備を進めたほか、成果の一部は第4回企画展示「町会所から市役所へ」で公開した。 ③中山恒三郎家資料について共同研究会とともに整理を進め、その成果を横浜市歴史博物館のアウトリーチ事業「中山恒三郎家書院および諸味蔵公開」関連イベントの公開講座で報告した。 ④「横浜と軍隊」に関する調査研究をおこない、「兵隊山」と呼ばれた旧太田陣屋の変遷についてまとめ、『開港のひろば』144号に報告した。

（2）財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
-----	----------------

戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・都市発展記念館と連携して実施した。今年度は8回の定例報告会を開催した。 ①戦後における横浜市（神奈川県）地域の在日朝鮮人／②横浜消防の近代史―町火消から自治体消防の誕生まで／③神奈川ニュース映画協会製作映像について／④田村明と横浜の都市づくり／⑤横浜の旧軍施設と戦後／⑥昭和戦前期の青年団エリートと関内の青年団／⑦戦後横浜の空襲・戦災記録運動―「今井清一文庫」の活用に向けて／⑧山室周作の昭和二〇年―山室周作日記（山室宗作家資料）の紹介 ＊都市発展記念館・市史資料室との連携研究事業
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（当館蔵）の昭和戦後期の読解・分析をおこなった。 ＊都市発展記念館との連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	都市発展記念館と連携して都市横浜の歴史空間を復元するため、その準備作業をおこなった。 ＊都市発展記念館との連携研究事業
小机地域(横浜市北部域)における総合的研究	横浜市北部域の新たな歴史像を描いていくことを目的とする同総合研究に参加し、小机城の現地調査を実施した。 ＊財団全体での連携研究事業

（３）外部研究者との共同研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜関係海外資料調査研究会	館蔵海外関係資料の活用と補足所在調査をおこなう （１／２年次）	研究会を定期的に開催し、在米関係資料「マーガレット・ハウ・ユーイング所蔵史料」の調査・翻刻・翻訳を実施した。
横浜幕末維新史研究会	幕末維新时期（おおむね1850～1870年代）の横浜の政治・経済・外交・社会情勢などについて、外部の研究者と共同で調査研究をおこなう （１／３年次）	①幕末維新时期の横浜・開港都市に関わる研究者を招請し、研究会を開催。 11/9 「横浜日本人町の形成過程―都市建設から社会の成熟まで―」（中尾俊介） 12/22 「幕末兵庫の石炭山開発」（添田仁） ②幕末維新时期の横浜の商業、海防等に関わる原資料（古文書）分析のため、長崎歴史文化博物館、三重県総合博物館等へ出張調査を実施。 ③当館所蔵の海運・船舶関係古写真悉皆調査を実施。 ④幕末維新时期の横浜に関わる専門論考のリストアップ作業の実施。

中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (1／3年次)	①中山恒三郎家文書の整理及び目録作成(約1,000点) ②『横浜貿易新報』川和版の記事目録の作成(T2～T5) ③中山恒三郎家関係者への聞き取り調査(オーラル・ヒストリー) 2/7 ④中山恒三郎商店取引先の史料調査 ⑤研究会の開催 8/4 川和・中山恒三郎家 研究報告Ⅰ:「中山恒三郎研究会の回顧と展望」(吉田律人) 研究報告Ⅱ『『横浜貿易新報』郡版に見る大正期の川和地域一学校問題を中心に一」(北川恵海) 12/8 横浜開港資料館 研究報告Ⅰ:「中山恒三郎家と菊に関する基礎的研究—『中山恒三郎文書』以外の史料から—」(佐藤大悟) 研究報告Ⅱ:「都田村と軍隊—中山恒三郎家文書軍事関連資料の紹介—」(伊藤陽平)
京浜移住者研究会	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (1／3年次) ※笹川科学研究助成(実践研究部門)及び横浜市ふるさと歴史財団・横浜文化賞奨励金活用研究補助事業として実施。	①関連資料の収集および浴場経営者データベースの作成(京浜移住者研究会編『報告書 都市移住者を結節点とした地域間連携に関する基礎的研究』発行) ②石川県における浴場経営者の寄進物調査(鹿島郡中能登町) ③研究会・打ち合わせの開催(4/28, 6/4, 9/11, 9/12, 2/21) ④石川県の研究者・学術団体(加能地域史研究会)との共同シンポジウムの開催準備
相武地域史研究会	博学連携事業の一環として、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究(軍隊・戦争と地域社会)を東海大学文学部歴史学科と共同で実施する。 (1／2年次)	①研究会の開催 6/20 横浜開港資料館 8/28 横浜開港資料館 11/28 横浜開港資料館 1/29 横浜開港資料館 ②共催シンポジウム「軍隊・戦争と地域社会」(仮)の開催準備

(4) 研究紀要の発行

今年度は発行せず。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

(1) 常設展示室観覧者の推移（目標数 51,600 人）

	有料入館者（人）				無料入館者 （人）	合計 （人）	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	閲覧室	計					
元年度	21,928	3,470	748	26,146	21,398	47,544	85.9%	274 日	174
30 年度	26,035	4,729	823	31,587	23,714	55,301	82.1%	303 日	182
29 年度	31,304	6,110	941	38,355	28,995	67,350	123.5%	303 日	222

(2) 常設展示室でのミニ展示

常設展示室内で、新収蔵資料や新発見資料を紹介するミニ展示を開催した。

項 目	内容・成果
ミニ展示	第 98 回 3/1～4/30 「准秩父観音霊場と准西国稲毛観音霊場」 第 99 回 5/1～6/30 「神奈川開港」 第 100 回 7/2～8/31 「ラグビーと幕末・明治の横浜」 第 101 回 9/1～10/31 「関東大震災 96 周年 消防自動車メリーウェザー号」 第 102 回 11/1～12/27 「関東大震災以前の姿を伝える『横浜歴史イロハカルタ』」 第 103 回 1/4～4/1 「享保期、横浜村の村びとと土地」

(3) 旧館ホールの活用

旧館（旧英国総領事館）1 階の記念ホールを活用し、横浜市等と連携したパネル展等を実施した。

旧館来場者数：47,986 人（年間）

項 目	内容・成果
ラグビーワールドカップ 2019 トロフィーツアー in 神奈川・横浜 R1/8/31（土）	ラグビーワールドカップ 2019 横浜大会開催の記念事業として、旧館ホールにて「ウェブ・エリス・カップ」を展示し、約 500 名の市民が来場した。 ＊横浜市市民局との連携事業
パネル展示「イギリス と横浜－横浜がイギ リスのホストタウン になって」 ～R1/8/31（土）	東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に向けた機運醸成のため、横浜市をホストタウンとするイギリス代表チームと事前キャンプを紹介するパネル展を開催した。 ＊横浜市市民局との連携事業
横浜市指定登録文化 財パネル展	横浜市歴史博物館の出張展示として、横浜市が令和元年度に新たに指定した文化財についてのパネル展を開催した。

R1/12/4(木) ～R2/3/31 (火)	＊歴史博物館との連携事業 ＊臨時休館により終了
----------------------------	----------------------------

(4) 中庭展示

横浜市地域史跡である「たまくす」の木を中心に、ハイネ画「ペリー横浜上陸図」の陶板プレート、屋外展示として獅子頭供用栓・ブラフ溝・ガス灯（模型）、また開港から昭和戦前期にいたる横浜の歴史を子ども向けに紹介した展示パネルなどを設置。

中庭来場者数：74,745 人（年間）

(5) 開港（開館）記念日に関する事業

開港（開館）記念日の 6/2（日）を無料開館とした（入館者 2,113 人）。あわせて 6/1（土）6/2（日）の 2 日間でミュージアムショップセール（当館刊行物とオリジナルグッズの割引販売）を実施し、ショップの商品販売を促進した。



ラグビーワールドカップ 2019 トロフィーツアー



英国事前キャンプ・パネル展

4 企画普及事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催等で発表しました。また、横浜郷土史団体連絡協議会を中心に市民との協働を積極的に進め、地域事業者や横浜市等との事業連携もおこないました。また、年間で 10 日間、開館時間を午後 7 時まで延長し、利用者の便宜をはかりました（うち 1 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館にとめない中止）。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
平成 30 年度第 4 回企画展示 「浮世絵でめぐる横浜の名所」 H31. 2. 2(土)～H31. 4. 21(日) 会期 68 日 (年度中会期 18 日)	3,475 人 ＊会期中の 総入館者数 11,672 人 (目標数 11,800 人)	2019 年が横浜開港 160 周年にあたることを記念して、日本人の絵師によって描かれた浮世絵を題材に、開港により新たな「名所」となった「開港場・横浜」の風景について、名所を見る視線に注目しつつ、紹介した。

	1日あたり 193人	
第1回企画展示 「カメラが撮らえた横浜ー古写真にみる開港場とその周辺ー」 H31.4.27(金)～R1.7.15(月・祝) 会期 69日	18,242人 (目標数 18,500人) 1日あたり 264人	上記企画展に続く、横浜開港160周年の第2弾記念展示として開催した。開港直後から明治初年にかけて横浜で活躍したロシエとベアトの2人の外国人カメラマンと横浜に写真館を開いた日下部金兵衛の作品を展示し、それぞれの写真の撮影地点を示しながら、現在の横浜市中区を中心部の当該時期の風景を紹介した。
第2回企画展示 「開港前後の横浜 村びとが見た1858～1860」 R1.7.20(土)～R1.10.27(日) 会期 86日	11,473人 (目標数 16,350人) 1日あたり 133人	横浜開港160周年記念展示の第3弾として、「横浜村に住んでいた少年少女が開港前後の横浜のようすをどのように見たのか」という架空の設定のもと、安政5年(1858)～万延元年(1860)の2年間の横浜の移り変わりをわかりやすく紹介した。また、当館・外部機関の所蔵する歴史資料から、これまで一般に紹介されてこなかった横浜開港に関する資料を出陳し、「草創期」横浜についていくつかの新たな情報を提示した。
第3回企画展示 「横浜市中消防署100周年記念 横浜の大火と消防の近代史」 R1.11.2(土)～R2.1.26(日) 会期 68日	10,616人 (目標数 9,400人) 1日あたり 156人	2019(令和元)年9月1日、現在の横浜市中消防署の起源である神奈川県第2消防署が誕生して100周年を迎えた。それを記念した本展示では、横浜開港後の町火消から敗戦後の自治体消防にいたる横浜消防のあゆみを主に当館所蔵の歴史資料(写真・絵葉書・地図・文書)を中心に紹介した。 *中消防署開設100周年記念事業実行委員会から200万円の寄附金を得て実施。
第4回企画展示 「町会所から市役所へー古地図と古写真に見る横浜の歩みー」 R2.2.1(土)～R2.4.19(日) 会期 68日 *2.29(土)より臨時休館 (年度中開催日数 24日)	2,046人 *会期中の 総入館者数 2,046人 (目標数 7,350人) 1日あたり 85人	横浜市新市庁舎が2020(令和2)年春に完成することを受けて、都市発展記念館・歴史博物館との3館連携展示として実施。開港直後に町の行政機関として設置された町会所の歴史や明治22(1889)年に発足した横浜市の現在に至る歩みを、館蔵の古地図や古写真等で紹介した。 *都市発展記念館、歴史博物館との連携展示

(2) 展示関連事業の開催

事業名称	参加者数	事業内容
第1回企画展示 展示案内	展示案内 130名	5/11(土) 展示案内① 25名 6/2(日) 展示案内②(夜間) 28名

連続講座		6/28 (金) 展示案内③ (夜間) 10 名 7/13 (土) 展示案内④ 67 名
	関連講座 124 名	5/18 (土) 「古写真にみる開港場」 35 名 6/15 (土) 「吉田新田と神奈川宿」 48 名 7/6 (土) 「横浜周辺の名所」 41 名
第 2 回企画展示 講演会 関連講座 展示解説	講演会 68 名	8/31 (土) 「近代外交事始め——開港前後の幕府と欧米外交官たち」 講師：佐野真由子 (京都大学大学院教育学研究科・教授)
	関連講座 86 名	8/17 (土) 「開港前後の横浜って？」 (親子向け) 30 名 講師：吉崎雅規 (当館・調査研究員) 9/28 (土) 「開港前後の横浜——新出資料も交えて」 (一般向け) 56 名 講師：吉崎雅規 (当館・調査研究員)
	展示解説 44 名	7/26 (金) 展示解説① (夜間) 7 名 8/23 (金) 展示解説② (夜間) 7 名 10/26 (土) 展示解説③ 30 名
第 3 回企画展示 講演会 関連講座 展示解説 関連イベント	講演会 150 名	11/9 (土) 中区防災減災講演会 (横浜市中消防署 100 周年 記念講演会) 共催：中消防署・中区役所 会場：横浜市開港記念会館 講師：鈴木淳 (東京大学大学院・教授)
	関連講座 52 名	12/7 (土) 関連講座「横浜消防の近代史」 第 1 回「消防署の誕生—横浜開港から関東大震災まで—」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：吉田律人 (当館・調査研究員) 1/12 (日) 関連講座「横浜消防の近代史」 第 2 回「空襲との闘い—戦時体制下の横浜消防—」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：吉田律人 (当館・調査研究員)
	展示解説 合計 61 名	11/9 (土) 展示解説① 11/22 (金) 展示解説② (夜間) 12/20 (金) 展示解説③ (夜間) 1/5 (日) 展示解説④
	関連イベ ント 1,800 人	11/9 中消防署 100th Anniversary 大感謝祭 会場：日本大通り (横浜開港資料館前路上) 主催：中消防署・伊勢佐木消防団・加賀町消防団・山手消防 団・中区役所 内容：消防車両等の展示、防災・救急イベントの実施

第4回企画展示 講座	講座 55名	2/7（金） 横浜市職員向け講座および企画展示見学会 会場：横浜開港資料館講堂 講師：西川武臣（当館・館長）、青木祐介（横浜都市発展記念館・副館長） ＊都市発展記念館との連携
---------------	-----------	--



第2回企画展示親子向け講座



中消防署 100 周年大感謝祭

（3）各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
「開港前後の横浜 1858～1860」図録	1000部	1,000円＋ 税	A4判、64頁。横浜開港資料館編
「横浜の大火と消防 の歴史」図録	2000部	1,000円＋ 税	B5判、120頁。横浜開港資料館編

（4）地域・市民・学術団体との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業をおこないました（令和元年度末現在、加盟46団体）。また、地域事業者によるイベント「横浜セントラルタウンフェスティバルY160」に参加し、当日は無料開館日として多くの入館者を得ました。

項目	事業内容等
横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業	①総会・研修会・記念講演会の実施 第14回定期大会 4/20（土） 参加34団体 研修会 第53回 6/28（金） 第54回 8/30（金） 第55回 11/29（金） 第56回 3/13（金） ＊第56回は臨時休館にともない中止 全3回 参加者 計91名 記念講演会「幕末三浦半島の海防体制」4/20（土） ②横浜郷土史団体連絡協議会 News の発行 53号～56号 ③特別講座「古代の東海道はどこか」2/28（金） 講師：平野卓治氏 ＊臨時休館にともない中止

	④会報 13 号を刊行
「横浜セントラルタウンフェスティバル Y160」への参加	開港記念日を中心に、地元の商店街組織（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催して行われるイベントに、都市発展記念館・ユーラシア文化館と共同で参加し、5/25（土）5/26（日）のイベント当日は無料開館日とした。開港資料館は、5/3（金祝）～5/26（日）に開催された「Y160 宝探しウォークラリー」の宝箱設置ポイントとなり、多くの参加者があった。
「ラグビー発祥地 横浜」記念碑の碑文監修	神奈川県ラグビーフットボール協会・横浜市民局ラグビーワールドカップ 2019 担当課による「ラグビー発祥地横浜」の記念碑設置に協力、碑文を監修した。記念碑は中区山下町公園に設置、除幕式に館長と担当者が出席した（9/5）。
川崎市市民ミュージアム資料レスキュー活動への協力	神奈川県博物館協会からの要請を受け、台風によって甚大な被害を被った川崎市市民ミュージアム収蔵庫の資料レスキュー活動に参加した。
横浜商工会議所などの機関誌への原稿執筆および学会との連携事業	横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」等への寄稿



Y160 宝探しウォークラリー



「ラグビー発祥地 横浜」記念碑の除幕式



（５）行政との連携事業

項 目	事 業 内 容 等
横浜市民局との事業連携	ラグビーワールドカップ 2019 横浜大会開催の記念事業として、旧館ホールにて「ウェブ・エリス・カップ」を展示した（8/31）。
	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた機運醸成のため、横浜市をホストタウンとするイギリス代表チームと事前キャンプを紹介するパネル展を旧館ホールにて開催した。
	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時における連携事業の実施について、横浜市民局・関係諸施設と検討した。 ＊オリンピックの延期により一時休止。

横浜市道路局への事業協力 H31/3/1（金）～R1/6/9（日）	横浜市道路局他が主催する「横浜横須賀めぐりサイクルスタンプラリー」に参加し、スタンプポイントを旧館ホールに設置した。
中消防署との事業連携 R2/1/5（日）	中消防署主催の消防出初式に際して無料開館し、中消防署・都市発展記念館との連携でスタンプラリーを実施した。
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」を都市発展記念館職員と共同で執筆した。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆協力。 横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」への出演。

（６）マスコミ各社への協力

項 目	事 業 内 容 等
テレビ局・新聞社などへの協力	「ヨコハマよみうり」などへの記事連載、NHK「歴史秘話ヒストリア」などへの出演ほか。

（７）学校連携

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 8/20（火）～8/25（日） 12 人
アーカイブズ・カレッジの受け入れ	国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）の施設見学を受け入れた。 9/6（金） 30 人
横浜商科大学「2019 野毛まちなかキャンパス」への協力	横浜商科大学が実施する市民向け公開講座に企画協力し、「開港 160 周年・横浜の町の発展」シリーズに講師を派遣した。 10/21「横浜開港と移住する人々びと」 11/11「明治初年の横浜市街地～仮名読新聞の記事から～」 11/21「開港前後の横浜 1858～1860 年」 12/23「横浜の都市形成と消防体制」
神奈川県高等学校文化連盟との連携	第 25 回神奈川県高等学校社会科研究大会（11/10、会場：聖光学院高等学校）を財団と共催した。
教員対象講座への講師派遣	横浜市教職員育成課主催の教員養成講座「よこはま教師塾アイ・カレッジ」に講師を派遣した。

（８）広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第 144 号～第 147 号（年 4 回）年間合計 50,000 部

リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット(小中学生用)4,000部 横浜開港資料館案内パンフレット(一般用)10,000部 横浜開港資料館催し物案内、年2回
その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュースによる催し物等の情報発信 ③ みなとみらい線日本大通り駅構内への企画展ポスター掲示 ④ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材受け ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時、行った。また、昨年更新したOPACシステムに所蔵図書・新聞雑誌の追加アップを行った。「開港のひろば」の更新を随時おこなった。 ・HPアクセス件数 合計 126,938件
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第168号～第180号(計13回)と号外1回(台風19号による臨時休館案内)を1,200～1,300名の登録者に配信した。

6 開港資料館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。施設老朽化にともない収蔵庫空調機、湧水ポンプ等が故障し、修繕を行いました。とくに空調機に関しては、この数年修繕を繰り返しており、資料の適切な保存管理という当館事業の根幹を支える重要な設備であるため、計画的な修繕の実施が必要となります。今後も横浜市と連絡を密にしながら、適切な管理を行っていきます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。 主な修繕：収蔵庫空調機、湧水ポンプ

7 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 企画展関連書籍や絵はがき・バンダナ・ミニタオル等のグッズを継続販売した。
- ② 売れ筋書籍「ペリー来航と横浜」の増刷をし、販売増進に努めた。
- ③ 開港（開館）記念日にセールを実施した。

(2) 自動販売機（１台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置した。

(3) 喫茶室の委託

来館者サービスとして付属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Au jardin de Perry（ペリーの庭で）

＜各事業の推移＞

(千円)

項 目	令和元年度	平成３０年度	平成２９年度
ミュージアムショップ売上	２，８７４	３，８５８	４，８１１
自動販売機手数料収入	９４	１０２	１１２
喫茶室委託料収入	１，８８０	１，９１３	１，８１８

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	所蔵資料点数は 27 万点を超えた。今年度は寄贈・寄託ともに貴重な文書・写真アルバムが収集できた。今後の閲覧公開を見据えた資料のデジタル化も順調に進めている。	B
調査研究事業	各調査研究、財団諸施設との連携研究とも順調で、とくに今年度は外部研究者と共同した調査研究が新規に立ち上げられ、今後の事業展開に向けて連携の幅が広がった。	A
常設展事業	常設展示室でのミニ展示に加えて、今年度はラグビーワールドカップ、東京オリンピック関連企画の効果により、旧館ホールに多くの来館者を得た。	A
企画普及事業	臨時休館の影響により、年間の来館者数は目標に達しなかったものの、Y160 や開港記念日などの無料開館日に多くの入館者があり、また企画展示でも新規の展示手法の導入や寄附金の獲得などの成果を上げた。	A
情報事業	HP・メールニュースでの情報発信を順調におこなった。また『広報よこはま』や『横濱』等の広報誌・団体機関誌への寄稿をおこない所蔵資料の紹介に努めた。	A

施設維持事業	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理を適切に実施した。施設の老朽化や器械の故障が多発する現状にありながら館運営に支障がないように努めた。	A
収益事業	売り上げは落ち込んでいるが、開港記念日にセールを行って販売強化に努めるとともに、在庫切れだった人気書籍「ペリー来航と横浜」を増刷した。	B

4 都市発展記念館事業

今年度の企画展事業では、記念切符をもとに戦前戦後の観光イベントを振りかえる企画展「一枚の切符から昭和のあの頃へ」を開催し、当館にしかないコレクションを活かした展示を試みました。また新市庁舎建設地で埋蔵文化財センターが実施した洲干島遺跡の発掘調査成果を紹介する企画展「近代横浜を掘る」を、歴史博物館・開港資料館との3館連携展示として開催し、施設間の事業連携を強化しました。あわせて市からの委託により、新市庁舎での遺構展示のサイン製作にも携わりました。連携展示は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、会期半ばで臨時休館となりましたが、休館中の対応として、担当による展示解説を動画で撮影し、HP上で公開する準備を進めています。

常設展事業では、コーナー展を年3回開催して新収蔵資料の紹介に努めたほか、常設展示の英文ガイドを作成して、外国人観覧者への配布を始めました。

資料収集保管事業では、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えて、1964年の東京オリンピックをはじめスポーツ関連の資料収集に力を入れたほか、HP上で公開していた絵葉書データベース、地図データベースの内容を更新し、資料の公開点数を大幅に拡充しました。

その他、市内小学校団体の受け入れや教員向けの研修など学校連携事業も順調に進めました。集客イベントでは、恒例となった開港記念日のワークショップ開催、また5月末には横浜セントラルタウンフェスティバルY160に参加し、イベント当日の2日間は無料開館して多くの入館者を得ました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休館の影響で、3月の開館祭や企画展「近代横浜を掘る」で予定していた講座等のイベント等が中止となり、年間では目標の入館者数を達成することができませんでした。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

（1）資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈17件206点 寄託0件 0点	主な収集資料：市原隆夫旧蔵中村順平関係資料、川崎貯蓄銀行創立五十年記念「世直福神」、横浜博覧会横

		浜館制服、山手警防団第三・第五分団団旗、根岸線 全線開通5周年記念切符セット、横浜専門学校関係 写真ほか
資料の購入	16件 101点	主な収集資料：横浜市オリンピック歓迎装飾、東神奈 川程ヶ谷間土工其之二期工事竣工記念写真帖、昭和30 年代横浜市神奈川区内の銭湯掲示ポスターほか
資料修繕	0件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	6件 129点	主な複製資料：日本郵船歴史博物館所蔵平尾榮美資料
資料のデジタル化	224点	主な資料：遠藤於菟建築写真帖、中区記録映像等
複製資料の提供	35件 103点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料 を画像で提供した。
資料の特別利用	1件 95点	調査研究目的による所蔵資料の原資料での特別利用 に対応した。
資料の貸出	1件 10点	他の博物館施設での展覧会に当館所蔵資料を貸し出 した（苫小牧市美術博物館）。

(2) 資料収集実績 (R1.4～R2.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	－ (－)	－ (－)	12 (81)	－ (－)	12 (81)	1,669 (1,657)
図書	2 (6)	－ (－)	3 (60)	－ (－)	5 (66)	2,393 (2,388)
新聞雑誌	1 (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	1 (－)	2,173 (2,172)
文書	10 (6)	－ (－)	3 (274)	－ (－)	13 (280)	4,381 (4,368)
紙票類	75 (－)	－ (－)	36 (179)	－ (－)	111 (179)	5,533 (5,422)
写真	11 (1)	129 (－)	149 (2,861)	－ (－)	289 (2,862)	22,138 (21,849)
絵葉書	2 (－)	－ (－)	3 (5)	－ (－)	5 (5)	2,506 (2,501)
地図	－ (3)	－ (－)	－ (3)	－ (－)	－ (6)	736 (736)
図面	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	941 (941)
絵画	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	2 (2)
映像	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	55 (55)
録音資料	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	171 (171)
電子資料	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	12 (12)
合 計	101 (16)	129 (－)	206 (3,463)	－ (－)	436 (3,479)	42,710 (42,274)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	未燻蒸資料の一部について、ユーラシア文化館と共同で外部倉庫での資料燻蒸を実施した。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200m ²)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他) などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また開港資料館・市史資料室・歴史博物館との連携研究事業を進めました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市形成史 (1 / 3 年次)	関東大震災から高度経済成長期までの昭和期を中心に、現代都市横浜が形成される過程を、都市政策・都市計画 (港湾計画)・都市交通などの観点から明らかにする。今年度は都市交通について資料の整理と分析を行い、その成果を企画展で公開した。
	【近代遺跡】埋蔵文化財センターが発掘調査をおこなった洲干島遺跡 (中区本町) の遺構・出土遺物について、横浜市域における類似の近代遺跡との比較調査をおこない、その成果を企画展「近代横浜を掘る」で紹介した。
	【横浜地図データベース事業】過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに横浜および横浜周辺の地図について所在調査と分析を行う。今年度は所蔵地図資料の高精細画像データの整理を行った。成果の一部はホームページで公開した。
横浜都市経済・産業史 (1 / 3 年次)	昭和期を中心に下記の三つの視点から現代都市横浜の経済 (産業) 構造を明らかにする。 (1) 商業地区 (商店街) の形成と変容について / (2) 観光および都市イメージの形成と変容について / (3) 工業地帯の形成と変容について 今年度は(2)について、旅行・交通関係資料 (個人コレクション) の整理と分析を行い、その成果を企画展で公開した。また、映像資料の整

	理と分析を行い、その成果を連携研究事業において報告した。
横浜市政史／都市生活・文化史 (1／3年次)	昭和期を中心とした横浜スポーツ史に関する資料を調査し、スポーツが行政および市民生活に与えた影響について明らかにする。 市内の関係機関の調査により、昭和期および第18回オリンピック東京大会開催時における未公開資料を複数発掘したほか、市場に出ている国体関連資料の収集を行った。また、市内のオリンピック出場選手、運営関係者の資料調査を行っており、これらの成果を次年度の企画展で公開する。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して実施した。今年度は下記8回の定例報告会を開催した。次年度からは、横浜の空襲・戦災資料および田村明資料の活用に向けた作業を中心に継続する。 ①戦後における横浜市（神奈川県）地域の在日朝鮮人／②横浜消防の近代史―町火消から自治体消防の誕生まで／③神奈川ニュース映画協会製作映像について／④田村明と横浜の都市づくり／⑤横浜の旧軍施設と戦後／⑥昭和戦前期の青年団エリートと関内の青年団／⑦戦後横浜の空襲・戦災記録運動―「今井清一文庫」の活用に向けて／⑧山室周作の昭和二〇年―山室周作日記(山室宗作家資料)の紹介 ※開港資料館・市史資料室との連携研究事業
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（当館蔵）の昭和戦後期の読解・分析をおこなった。 ※開港資料館との連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	都市横浜の「歴史空間」を復元する研究事業の立ち上げに向けて、準備作業をおこなった。 ※開港資料館との連携研究事業
共同資料調査	都筑区川和町の旧家である中山恒三郎家資料について、開港資料館と共同で資料整理を進めた。 ※開港資料館・歴史博物館との連携研究事業

(3) 外部研究者との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
-----	----------------

京浜移住者研究会 (1／3年次)	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を実施する。今年度は石川県から移住した銭湯経営者に着目し、関連資料の収集と浴場経営者データベースの作成、および石川県における浴場経営者の寄進物調査(鹿島郡中能登町)をおこない、報告書としてまとめた。また次年度開催に向けて、石川県の研究者・学術団体(加能地域史研究会)と共同シンポジウムの検討をおこなった。 * 笹川科学研究助成(実践研究部門)及び横浜市ふるさと歴史財団・横浜文化賞奨励金活用研究補助事業として実施。
相武地域史研究会 (1／2年次)	博学連携事業の一環として、東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究(軍隊・戦争と地域社会)を実施する。今年度は開港資料館にて年4回の研究会を開催した。 * 開港資料館・東海大学文学部歴史学科との連携研究事業

(4) 研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市発展記念館 紀要 第16号	700部	・写真家・常盤とよ子が写した戦後神奈川の婦人保護事業 ・資料紹介「建築家中村順平関係資料(市原隆夫旧蔵)」

3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	・教員研修や小学校団体見学向けに、コーナー「吉田新田その後」を常設的に設置した。 ・博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介展示「ライト・アップ・ヨコハマ」を設置した。
コーナー展の開催	・「横浜の戦争孤児を救ったボーイズホーム」 H31/2/16(土)～6/2(日) 戦後横浜に多く存在した戦争孤児の保護施設、ボーイズホーム関連の資料群が寄贈されたことを記念し、同施設の活動について寄贈資料から紹介した。 ・「戦争捕虜となった横浜市民の記録ー吉川歳雄氏従軍関係資料よりー」 R1/8/10(土)～R2/1/17(金) 中国東北部から沖縄県宮古島に出征し、戦後米軍の捕虜となった吉川歳雄氏の従軍関連資料が寄贈されたことを記念し、吉川氏の従軍・捕虜生活を寄贈資料から紹介した。 ・「常盤とよ子追悼展 第一部：写真家・常盤とよ子の軌跡」

	R2/1/18（土）～ ＊2/29より臨時休館 令和元年1月24日に逝去された常盤とよ子氏を追悼して、横浜文化賞や神奈川文化賞を受賞するに至る常盤氏の写真家としての軌跡を寄贈資料から紹介した。
	・「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 上記コーナー展以外の期間に、小学校団体や教員向けに吉田新田関連の資料を展示した。
英文ガイドの配布	横浜市立大学国際総合科学部鈴木伸治研究室の協力を得て常設展の英文ガイドを作成し、外国人観覧者に配布した。

（２）常設展示観覧者の推移（目標数48,000人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
元年度	864	510	1,374	32,021	33,395	80%	278日	120
30年度	942	663	1,605	40,287	41,892	119%	307日	136
29年度	874	664	1,538	33,811	35,349	92%	307日	115

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。また、より多くの方に当館へ足を運んでいただけるよう、年11回の夜間開館日を設けて午後7時まで開館時間を延長しました。

昨年度に引き続き、小学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関との協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現しました。

（１）企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「一枚の切符から昭和のあの頃へ～思い出す横浜のイベント、ニッポンの風景」 令和元年7月13日（土）～9月23日（月祝） 開館日数63日	一般 300円 小・中 150円	4,550人 （目標数 5,900人）	当館で所蔵する交通・観光関係の中から、さまざまな切符と記念きっぷを紹介することを目的に、それらを通じて都市横浜を舞台としたイベントをふり返し、また日本各地の観光名所をめぐるができるという内容の企画展を実施した。 【展示構成】 Ⅰ 記念きっぷに見る都市横浜の昭和 Ⅱ 汽車・電車の切符の昭和史 Ⅲ 記念きっぷで旅する日本の観光風景 【関連事業】 (1)展示図録の編集・発行

			定価:1,080 円(税込)、1,000 部発行、売上:345 部 (2)展示解説 7/21、8/10 夜間、8/25、9/14 夜間 参加者数 18 名、8 名、29 名、18 名(実施順) ＊8/10、9/14 は開館時間夜間延長 (3)ワークショップ「日本一周ジャンボすごろく」「硬券でしおりを作ろう！」 毎週土・日曜日および祝日
横浜市新市庁舎完成記念 3 館連携展示「近代横浜を掘る 洲干島からひろがる都市のすがた」 令和 2 年 1 月 18 日(土)～4 月 12 日(日) 開館日数 36 日 (年度内 63 日) ＊2/29 より臨時休館	一般 300円 小・中 150 円	2,886人 (目標数 8,500人)	埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した洲干島遺跡の発掘成果をもとに、横浜市新市庁舎が整備される北仲通南地区の開港期から昭和戦前期までの都市形成史を、遺構と出土遺物から紹介した。 ＊開港資料館、歴史博物館、埋蔵文化財センターとの連携事業 【関連事業】 (1)現市庁舎市民広間でのプレ展示の開催 R1/12/16(月)～12/27(金) (2)展示図録の編集・発行 定価:900 円(税込)、売上:163 冊 (3)展示担当による展示解説 2/2(日)28 名、2/24(月祝)18 名 3/29(日)＊臨時休館により中止 計 46 名 (4)連続講座「洲干島遺跡を読み解く」 2/29(土)、3/7(土)＊臨時休館により中止 (5)歴史散歩「ヨコハマ近代遺跡めぐり」 3/20(金祝)＊臨時休館により中止 (6)ギャラリー展「7 代目横浜市庁舎ができるまで～広報課写真資料より」 1/18(土)～ 会場:1 階ギャラリー ＊市史資料室との連携 (7)ワークショップ「くるりんぱ洲干島 Ver.」「オリジナル絵葉書を作ろう！」 会期中の毎週土日・祝日に開催 (8)毎日新聞に連載記事掲載(3/26, 3/28, 4/3)
次年度企画展準備			次年度開催予定の企画展「横浜スポーツのあゆみ」(仮)に向けて資料調査を実施した。



企画展ワークショップ



新市庁舎完成記念連携展示・市民広間でのプレ展示

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者
元年度	2,588	4,848	7,436	31.5%	99	75
30年度	7,516	16,058	23,574	152.0%	136	173
29年度	4,215	11,293	15,508	87.1%	137	113

(3) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
ギャラリー展「五十嵐英壽写真展 平成を振りかえる～みなと点描」 R1/4/20(土)～8/18(日)		平成から令和への元号改正を記念して、当館が所蔵する五十嵐英壽撮影写真から、平成時代の横浜港の変遷をたどる写真をセレクトして展示した。 会場：1階ギャラリー
開港記念日 R1/6/2(土)	1,199人	市内の小学校が休みとなる6月2日の開港記念日を無料開館日とし、通常の企画展関連ワークショップに加えて、小学生向けのワークショップを開催した。ワークショップ開催では、活動支援ボランティアによる支援を得た。当日は夜7時まで開館時間を延長した。
歴博出張ミニ展示「チラシ・カタログにみる昭和40年代」 R1/8/21(水)～9/23(月祝)		歴史博物館の工事休館にともない開催。歴博が所蔵する昭和40年前後の家電製品、玩具、自動車等のチラシ、カタログをポスター大の複製パネルで展示した。 会場：1階ギャラリー
常盤とよ子追悼展 「第二部:常盤とよ子が写した戦後横浜の女性たち」 R2/1/18(土)～ *2/29より臨時休館		令和元年1月24日に逝去された常盤とよ子氏を追悼して、常盤氏の代表作である「赤線地帯」シリーズをはじめとした、戦後横浜の女性をテーマとした作品群を展示した。 会場：旧第一玄関
月イチ講座の開催	121人	1階ギャラリーを活用した月1回定例の講座を、ユーラシア文化館と共同で開催した。

		「横浜の交通(続)」(4/27、16 人) 「戦後横浜の諸相(6)「混血孤児」を救った聖母愛児園」 (5/18、15 人) 「近代都市を掘る 横浜と赤煉瓦」(6/15、24 人) 「聖母愛児園分園「ファチマの聖母少年の町」の記録」 (10/19、13 人) 「近代都市を掘る 横浜の近代遺跡」(11/16、23 人) 「横浜市の町名・村名(地名)」(12/21、30 人)
開館祭の開催 R2/3/14 (土) , 3/15 (日) * 臨時休館により中止		ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 建物見学ツアー、なつかしの街頭紙芝居、馬頭琴演奏会、 民族衣装試着体験、大道芸・缶バッジ制作など * 活動支援ボランティアによる支援



歴博出張ミニ展示



常盤とよ子追悼展

(4) 地域・行政・学術団体との連携事業

項 目	事 業 内 容
横浜セントラルタウン・フェスティバルY160への参加 R1/5/25 (土)、5/26 (日)	中区の商業団体が開催する横浜セントラルタウン・フェスティバルY160に、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加し、両日無料開館した。うち25日は午後7時まで開館時間を延長した。2日間の入館者数2,260人。
横浜市新市庁舎屋外展示サイン製作への協力	昨年度から継続して、横浜市新市庁舎外構部での遺構の屋外展示について、遺構サインおよび総合サインの作成業務を横浜市から受託した。
横浜市職員対象講座の開催 R2/2/7 (金)	横浜市新市庁舎完成記念連携展示「近代横浜を掘る」の開催にあわせて、市職員向けの講座・見学会を実施した。参加者55名。 * 開港資料館との連携
中消防署との事業連携 R2/1/5 (日)	中消防署主催の消防出初式に際して無料開館し、中消防署・開港資料館との連携でスタンプラリーを実施した。 * 開港資料館との連携

事業監修	京急電鉄の花月総持寺（旧花月園前）駅と京急東神奈川（旧仲木戸）駅について、駅名改称にともない駅構内に設置される歴史解説パネルの監修を行った（3月14日改称）。
川崎市市民ミュージアム資料レスキュー活動への協力	神奈川県博物館協会からの要請を受け、台風によって甚大な被害を被った川崎市市民ミュージアム収蔵庫の資料レスキュー活動に参加した。
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	中区に関する歴史資料を紹介する連載記事「歴史の散歩道」を、「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で執筆した。
「広報よこはま にし区版」への監修協力	「広報よこはま にし区版」3月号特集「横浜駅の今昔を知ろう」を監修した。
横浜市市民局との事業連携	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時における連携事業の実施について、横浜市市民局・関係諸施設と検討した。 *オリンピックの延期により一時休止。

（５）学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを実施。116校、10,174人の小学校4年生の団体入館があった。（前年度130校、11,282人）
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと連携し、小学校4年生向けのメニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施した（8/1、参加者25人）。 横浜市小学校社会科研究会主催の研修会「横浜市の様子の移り変わり」に協力し、当館を会場として主任調査研究員による講座を実施した（7/26、参加者52人）。
神奈川県高等学校文化連盟との連携	第25回神奈川県高等学校社会科研究大会を財団の共催事業とし、審査員を派遣した（11/10）。
学芸員実習の受け入れ	4名の学生を受け入れた（8/29～9/4）。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらおうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。



小学校教員向け研修



学芸員実習生によるミニ展示

(6) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	年2回の催し物案内、企画展関連広報印刷物、館報を中心に、適宜イベントチラシを作成・配布を行った。 ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第32、33号（各10,000部） ・その他、月イチ講座、開館祭チラシなど
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） コンテンツの更新：「横浜絵葉書データベース」リニューアルおよび 拡充（公開点数：計約600点から約800点）、「横浜地図データベース」 拡充（公開点数：計12点から21点）
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新 商品などの内容を盛り込んだメールニュースを定期的に配信した。 配信数 63号、64号+号外4回 計6回
ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写 真付きで発信した。 記事総数 4件

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	施設の維持管理 ・主な修繕：中央監視装置（正面カードリーダー等）

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、複製地図・絵葉書・DVD・クリアファイルなどを販売した。

② 委託商品の販売

各企画展に合わせ、一押し商品を目立つところに配置。同じジャンルの書籍を委託・オリジナル関係なく、興味関心のある人がまとめて買いたくなるよう陳列にも工夫した。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移＞ (千円)

項 目	令和元年度	平成30年度	平成29年度
ミュージアムショップ売上	6, 697	7, 173	6, 390
自動販売機手数料収入	81	85	85

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据えて、スポーツ関連の資料収集を重点的におこない、戦後資料の一層の充実につながった。	A
調査研究事業	各調査研究の成果は企画展・紀要等で公表し、継続中の開港・市史との連携研究事業も順調に進めた。今年度は新規に外部研究者との共同研究もおこない、連携の幅を広げた。	A
常設展事業	臨時休館の影響により、年間の目標数を下回った（70%）が、新収蔵資料や企画展の関連資料をコーナー展示で紹介して集客につとめた。	B
企画普及事業	2回の企画展示は当館独自の館蔵コレクションの公開、財団全体での連携展示の取り組みとしてどちらも評価できるものの、臨時休館の影響が大きく、とくに3月の開館祭が中止となったことで、年間の目標入館者数の49%にとどまった。	B
情報事業	ホームページでのコンテンツ「横浜絵葉書データベース」「横浜地図データベース」の公開点数を大幅に拡充した。	S
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく最低限の修繕を実施した。	A
収益事業	臨時休館の影響により、ミュージアムショップの売り上げは前年度を下回ったが、一昨年度よりは持ちこたえた。	B

5 ユーラシア文化館事業

昨年度は、国際都市横浜の博物館として、市民の異文化理解を一層進めていくため、大学をはじめ、他の研究機関や博物館、諸施設と連携した展覧会やイベントを積極的に実施すると共に、学校教育との連携にも積極的に取り組みました。

展覧会では、地域の団体・大学・他の博物館などと連携・協力した、企画展「装いの横浜チャイナタウン—華僑女性の服飾史」と「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—見られる私より見る私」を開催し、図録を刊行しました。また、7回の夜間開館延長を実施しました。

常設展示では、一部を企画展に合せて展示替えし、資料を初公開するなどして、収蔵資料の公開と学校教育への協力を行いました。

調査研究では、収蔵資料の基礎的研究や展覧会へ向けての調査研究とともに、歴史博物館や館外の研究者と協力してユーラシア概念の一般化を目指す研究も継続して進めました。学校との連携では定着した小学4年生の学校団体見学利用に加え、当館独自の取組として、小学2年生の国語学習（「スーホの白い馬」）と関連付けて、学校団体の見学及び馬頭琴・民族衣装の体験を積極

的に進めました。

普及啓発事業では、1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）や中庭を活用し、各種パネル展、企画展に関連した写真展やワークショップ、ユーラシア文化館・都市発展記念館専門職員の連続講座（月イチ講座）など多様な催しを実施しました。さらに、5月26日・27日のY160、6月2日の開港記念日を無料開館とし、市民の方が当館を身近に感じていただけるような様々なイベントを展開し、多くの方々の来館を得ました。イベントには、市民ボランティアを受け入れるとともに、国際フェスタへの参加や、館の外での活動にも取り組みました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休館の影響で、3月の開館祭等のイベントが中止となりました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈103点 寄託2点	主な収集資料：小間嘉幸絵画資料、横浜華僑服飾関係資料ほか
資料の購入	0点	
資料熟覧	3件	大学の博物館や社会教育の授業などに対応した。
文献資料熟覧	1 件	『広州漢墓』ほか
資料の貸出	4件	国際シンポジウムへの収蔵資料の貸し出しおよび小学校への学習教材（民族衣装、馬頭琴など）の貸出しを行った。
収蔵資料の画像利用	1件	『北東アジアにおけるモンゴル史関連文化財』（モンゴルアカデミー企画）へ画像を提供した。

（2）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
洋雑誌	未着手。
和雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 1,650 件

（3）資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・ 歴史資料	0 (0)	0 (0)	103 (142)	2 (0)	105 (142)	8,914 (8,809)
図書	14 (2)	0 (0)	27 (969)	0 (0)	41 (971)	22,504 (22,464)
雑誌	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	35 (35)	8,334 (8,299)
電子資料	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	20 (19)
合 計	14 (2)	0 (0)	166 (1,146)	2 (0)	182 (1,148)	39,772 (39,590)

累計	914	2	38,674	182	39,772	
----	-----	---	--------	-----	--------	--

※（ ）内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	未燻蒸資料について、都市発展記念館と共同で専門業者に委託して殺虫殺菌燻蒸を実施した。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号)

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げてきています。また、ユーラシア概念に関する歴史博物館との共同研究については、31年度も継続して実施しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
収蔵資料と関連資料の研究 (4/5年)	海外の博物館等にてイスラーム時代のガラスや陶器資料を実見し情報を収集した。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究 (4/5年)	中華街関係の企画展にあわせて、横浜華僑の服飾関係資料などの調査研究を行い、貴重な資料の寄贈・寄託につながった。
ユーラシア概念をめぐる研究 (4/5年)	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施。歴史博物館学芸員および外部研究者の協力を得て、日本や東アジアを含むユーラシア諸地域の文化交流についての最新調査研究成果を共有した。各研究報告については、当館紀要にて要旨を公開している。(歴史博物館との連携事業)
横浜華僑・中華街に関する研究 (1/3)	横浜華僑の服飾関係資料調査、口述記録調査を行い、企画展を実施するとともに、研究成果を講演会や月イチ講座で発信した。また、企画展の開催にあたっては横浜中華街発展会協同組合の団体や多くの個人の協力を得て実施した。
令和2年度以降開催予定の企画展調査	令和2年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

(2) 研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第8号（A4判、60頁、400部）を発行。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。展示ケース照明の修繕を行うとともに展示室全体の照明の見直しを行い、見易く雰囲気の良い展示室への改善に努めました。

（1）常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	・企画展やイベントに合わせて、入口ケース、「装う」、「伝える」の展示替えを行った。また、新年の干支に合わせて企画展示「子（ねずみ）をさがせ！」で拓本「鏡」と中国年画の図版を展示した。会期：12月25日～2月4日 ・企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」の関連事業として、特別公開「江上コレクションの西アジア服飾品」を実施した。会期：10月5日～12月22日、4月末まで会期を延長 ・企画展やイベントにあわせて、ライブラリーに関連図書を配架した。

（2）常設展示観覧者の推移（目標数 40,000 人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
	大人	小中	計					
R 1 年度	729	376	1,105	31,688	32,793	79.0%	274 日	119.7
3 0 年度	912	441	1,353	40,143	41,496	117.5%	305 日	136.0
2 9 年度	985	589	1,574	33,730	35,304	93.0%	305 日	115.8

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

都市発展記念館と二施設一体となって市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントを実施しました。また、より多くの方に当館へ足を運んでいただけるよう、年間8回、午後7時までの延長開館日を設けました。

（1）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展 「装いの横浜チャイナ タウン—華僑女性 の服飾史」 H31.4.13(土)～ R1.6.30(日) 会期 79 日間（うち開館 日数 68 日）	一般 300円 小中 150円	11,643 人 （目標数 7,800 人） 1 日あたり 171 人	横浜開港 160 年を記念し、多文化共生都市横浜のシンボルである、横浜中華街の歴史を服飾という観点から取り上げた。横浜では開港から 160 年にわたり、中国系の人びとの生活が営まれてきた。日本では幕末・明治・大正・昭和・平成であり、中国では清朝・中華民国・中華人民共和国の時代である。その間人びとの服装は変化した。なかでも旗袍（チャイナドレス）の誕生と変遷は時代の変化を象徴的に

			表している。本展示では、旗袍の意外な歴史を紐解くとともに、中国本土および横浜華僑女性の服飾変遷を、その衣装を身に着けた個々人の横顔にも触れながら紹介した。従来の当館の企画展とは異なり、地元中華街を扱ったことで、市民には親しみ、市外在住者にはエキゾチックな魅力で企画をアピールし、目標を上回る観覧者となった。また新聞連載をはじめ多くのマスコミに取り上げられたことで、当館の存在・本展示の内容を広く紹介し、国際都市横浜の歴史を普及することの貢献できた。 ●展示図録の編集・発行』A4判、64頁 定価：1,350円（税抜）、売上 展示図録『装いの横浜チャイナタウン—華僑女性の服飾史』、売上694冊 【関連事業】 ①ギャラリートーク（4/20、5/5、5/24、6/15、6/23、6/28 会期中6回） 参加者：196人 ②ワークショップ（ボランティア参加） a. 中国結びにチャレンジ！ b. 中国系の衣装を体験！ 土、日、祝日開催 参加者：延べ813人 ③展示関連講演会（6/9） 広岡今日子（中国服コレクター）「旗袍の誕生と変遷」（仮題） 伊藤泉美（横浜ユーラシア文化館副館長）「横浜華僑女性の服飾変遷」（仮題） 会場：横浜情報文化センター 参加者：179人
企画展 「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—『みられる私』より『みる私』」 R1.10.5（土）～ 12.22（日） 会期79日間（うち開館日数66日）	一般 300円 小中 150円	10,380人 （目標数 8,500人） 1日あたり 157人	国立民族学博物館の巡回展示として、文化人類学者片倉もとこが50年前に調査を行ったサウジアラビア西部に位置するオアシスの村の女性に焦点をあて、半世紀にわたる生活変遷を、衣食住に関する116点の資料と調査当時の写真、そして現在行われている現地調査の成果を通してたどり、合わせて現在のサウジ女性が主体的に生きる姿も紹介した。関連企画として、連続講座、ワークショップ、遊牧民テントのイベント等を、関連機関と連携して実施した。来館者からは「興味をもち、理解できた」「イスラーム教の女性に対して偏ったイメージをもっていたことに気づいた」という感想が寄せられ、企画

		展を通して異文化理解を高めることに貢献できた。 (国立民族学博物館、片倉もとこ記念沙漠文化財団との共催) ●関連出版物への執筆と販売 『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年―「みられる私」より「みる私」』縄田浩志編、片倉もとこ記念沙漠文化財団 (B5 変形版 182 頁) 定価：1,800 円 (税抜)、売上：248 冊 【関連事業】 ①ギャラリートーク (10/20、10/25、11/3、11/17、12/13 会期中 5 回) 参加者：107 人 ②調査関係者による連続講座 (10/27、11/10、11/24、12/1、12/8 全 5 回) 受講者：142 人 ③ワークショップ a. 講演・試着体験「移りゆくアラビア衣装」(10/6 2 回) 参加者：30 人 b. ペーパークラフト「民族衣装マハーリードを和紙で作ろう！」(11/3、11/4、12/7 2 回 全 4 回) 参加者：17 人 c. Week-end ワークショップ (ブルグアの塗り絵、試着体験) 土、日、祝日開催 参加者：のべ 405 人 (ボランティア参加) ④イベント「遊牧民のテントでアラビア文化を体験！」(10/29～11/4) 会場：横浜情文プラザ 参加者：1,556 人 a. 「サウジアラビア女性の夜会を体験しよう！」 企画：秋田大学国際資源学部学生 (11/2 全 4 回) 参加者：20 人 b. コーヒー体験講座「サウジアラビアのコーヒー文化」(11/3) 参加者：31 人 c. アラビアコーヒーの試飲と香り体験 (11/2～11/4) ⑤パネル展「イスラーム&サウジアラビア&横浜を知ろう！」会場：当館 1 階ギャラリー 会期：企画展同時開催) a. ギャラリートーク (11/9) 参加者：29 人 ⑥「ごはんて世界一周！サウジアラビア編」(10/19) 主催：野毛地区センター、協力：横浜ユーラシア文化館 会場：野毛地区センター 参加者：9 人
企画展基礎調査		来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



装いの横浜チャイナタウン
ギャラリートーク



企画展記念講演会
装いの横浜チャイナタウン



企画展関連イベント
遊牧民テントのイベント
(協力：アラブ・イスラーム学院・片倉
もとこ記念沙漠文化財団・秋田大学)

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1日平均入館者
R 1 年度	6,722	15,301	22,023	152.2%	134	164
3 0 年度	3,456	11,017	14,473	88.7%	126	115
2 9 年度	3,698	12,614	16,312	102.6%	124	132

※H30年度の観覧者については、H29年度に実施した企画展「魅惑のランプー古代地中海からヨーロッパ、アジア・日本まで」の会期（H30.1.20～H30.4.1）のうち、H30.4.1の入館者分を含む。

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
月イチ講座の開催	89人	1階ギャラリーを活用し、気軽に参加できる講座を月に一回開催した。都市発展記念館と連携。 第1回「マルコ・ポーロと『東方見聞録』西アジアから中央アジアへ」（7/20 18人） 第2回「誰が洋服を作ったのか？ー横浜の中国人洋裁師」（8/10 18人） 第3回「おにぎりの文化史」（9/14 8人） 第4回「鉾とイルカと縄文人」（1/25 15人） 第5回「出土物が語る横浜中華街の歴史」（2/15 30人） 第6回「『東方見聞録』を読むー「山の老人」暗殺教団の話」（3/7）新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
「きける！ひける！馬頭琴演奏会」	参加者計 406人	モンゴル民話『スーホの白い馬』に登場する馬頭琴の演奏会と演奏ワークショップ、モンゴル民族衣装の体験を行

R1. 8. 23		った。演奏：宮原洋子 協力：天馬の会 また、新聞博物館の協力でオリジナル新聞作りも実施。馬頭琴コンサート（188人）、馬頭琴演奏体験（77人）、民族衣装体験（141人）
「なか区ブックフェスタ」への参加 R1. 10. 8～12. 1	7,344人	企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」に関連して、常設展示室の一部でミニ展示「アラブの絵本」を実施。でサウジアラビアやエジプトなどのアラブの絵本を紹介した。会期は、12月22日まで延長した。
開館祭 R1. 3. 14(土)・15(日)		コロナ感染拡大防止のため中止した。



馬頭琴コンサート



ミニ展示「アラブの絵本」

5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	・国語学習（「スーホの白い馬」）の充実を図るために、市内外の小学校にモンゴル体験キット（モンゴル民族衣装、馬頭琴）の貸出を行った。 ・小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、都市発展記念館と連携し、職員による解説と体験メニューを実施した。 116校 10,174人（前年度小学校4年生130校 11,282人）
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと連携し、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	12名の学生を受け入れた。企画展準備や実習により、学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。

（6）市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワーク	歴史博物館活動支援ボランティアによる当館でのワークショップ

ショップの実施	プなどを実施した。 ・ワークショップのべ活動人数 計 317 人
---------	---

(7) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合して刊行。常設展示室の案内リーフレットについては、アクセスなどをわかりやすく改善して、配布した。館報については、継続して配布した。 ・横浜ユーラシア文化館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『横浜ユーラシア文化館ニュース<i>News From EurAsia</i>』第31・32号（各8,000部）
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	・横浜市を通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。
	文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。

インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 190,260 件（前年度の 124 %）
Twitterの開設による情報発信	2019 年 10 月に公式 Twitter を開設。ツイート数合計 175、フォロアーは 406、インプレッションは合計 428,711。

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：横浜市による中長期寿命化修繕計画による外壁及びエレベーター塔工事を実施。

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、絵葉書・メモ帳・クリアファイルなどを販売した。

② 委託商品の販売

各企画展や各種のイベントに合わせ、一押しの商品を目立つところに配置した。同じジャンルの書籍を委託・オリジナル関係なく、興味関心のある人がまとめて買いたくなるよう陳列にも工夫した。

「装いの横浜チャイナタウン」では地域のお店などと連携し、ドレスや生地、翡翠のアクセサリなど特色のあるショップ展開を行ったことにより、収益を上げた。

（2）自動販売機（1台）の設置

＜各事業の推移：再掲＞

（千円）

項 目	令和1年度	平成30年度	平成29年度
ミュージアムショップ売上	6, 697	7, 173	6, 390
自動販売機手数料収入	81	85	85

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は着実に進捗した。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサー	A

	ビスも適宜対応した。	
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗することができた。歴史博物館と共同研究を実施する中で、外部研究者と新たな調査研究の成果を共有した。	A
常設展事業	常設展については、干支クイズなどの時宜に合った企画の実施、展示資料に関連したクイズの配布などの工夫を行うとともに、企画展に合わせ展示内容を連動させるなど集客を図った。	A
企画普及事業	財団内外と連携して、横浜の国際性をアピールする2回の企画展を開催し好評を得、企画展観覧者は昨年度比152.2%と伸びた。また今年度も、都市発展記念館と一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントの実施など、多様な催しを実施した。学校連携では、モンゴル関係キットの貸し出しを新規に始めた。	S
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用するとともにイベントごとに追加でチラシを作成・配布するなど広報強化に努めた。また、Twitterの開設などインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく円滑な運営に努めることができた。	A
収益事業	オリジナル新商品の開発や、企画展の開催に合わせ、関連書籍やグッズの販売などを積極的に行った結果、ミュージアムショップの収益増につながった。	A

6 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を發揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

資料収集保管事業では、出土品基礎整理を継続し、また劣化の著しい写真等の記録資料をデジタル化することで資料の保全に努めました。調査・研究事業としては、整理ボランティアによる出土品再整理作業を継続して行ない三殿台遺跡の再評価をしました。

常設展事業では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うとともに、住居跡保護棟の維

持管理を適切に行いました。さらに昨年度末に縄文時代と弥生時代の復元住居が新築され、安全できれいな状態で市民の皆さんに見ていただけるようになりました。

企画普及事業として、来館者にリーフレットを配布するとともに、火起こし・勾玉作り・土器作り体験教室、古代人体験教室、キャンプ in 三殿台など、さまざまな体験教室を館内で開催するほか、学校や地域へ職員を派遣し連携を図りました。これらのイベント等の開催は、ホームページや広報紙などで周知に努めるとともに、メールでの応募に対応しより利用しやすくしました。

市民協働事業として、収蔵資料の再整理のほか、ガイドボランティアによる土曜・日曜日の常設展示・遺跡ガイドを継続実施しました。刊行物・缶バッジ・土器片ペンダント・オリジナルクリアファイル・勾玉づくりキットを販売し、収益増加を図りました。

施設の管理運営面では、旧事務棟・展示棟・住居跡保護棟・復元住居・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施するとともに、繁茂した樹木の剪定など、安全性の確保に努めました。

来館者数は、春季に学校団体の来館者が増え例年を上回る人数が期待されましたが、一般利用者は酷暑の夏以来伸び悩み、加えてコロナ禍の影響による休館で目標数に達することができませんでした。

来年度は、夏のミストシャワー・冬の夜景観賞など三殿台の特徴を生かした新たな集客イベントを計画しており、市民サービスの向上、他施設・近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	横浜市歴史博物館で開催する企画展に向けて、弥生時代中期後葉を中心に再整理作業を行った。作業には整理ボランティアの協力を得た。
記録資料のデジタルデータ化事業	三殿台考古館保管の測量図面・写真類のデジタルデータ化を継続。遺構が不特定な写真について、特定作業を進めた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類した。

（2）調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	出土品の整理作業（分類・接合・復元・実測）を行った。この事業は市民ボランティア育成事業と関連付けて行っている。
古代技術の復元的研究	石蒸し調理法による調理実験を実施した。発掘調査で出土する礫群・集石遺構について実証的な研究を行った。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校団体見学の事前学習用に貸出した。また、小学6年生の学校見学の際、土器片や石器などの収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史教育に活用

	した。
--	-----

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 令和元年度観覧実績 13,427人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体および一般来館者見学時に、遺跡や展示品について解説を行いました。

（1）常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について、職員が3,116人に遺跡案内・展示解説を行った。

（2）住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを委託し、適切に実施した（12回）。また、住居跡保護棟の窓ガラス8枚に低反射フィルム貼付工を実施し、反射による内部の観察障害を軽減した（9年間の実績：72/72枚）。

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、解説や体験学習を実施し、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（1）企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
「いそっぴゴールデンウィークスタンプラリー」への参加	62人	4月27日から5月6日の期間で、「いそっぴゴールデンウィーク2019スタンプラリー」に参加した。景品交換者は36人。 スタンプラリーに合わせてゴールデンウィーク体験教室を開催した。参加者62人
「子どもアドベンチャー2019」への参加	中止	「子どもアドベンチャー2019」の参加を予定していたが、荒天のため中止（8月16日）。
三殿台遺跡整理ボランティア	476人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測および石器の実測作業を行った。 記録資料整理については写真資料整理・デジタル化作業を行った。
三殿台遺跡ガイドボランティア	69人	土日を中心に3人のボランティアが交代で来館者へ遺跡解説を行った。延べ69人が活動し1,025人をガイドした。
学校見学の受け入れ	3,529人	年間を通じて、小・中・高・大学の受け入れを行い、62校が見学した。引率者と事前に相談し、火起こし

		など体験学習メニューを積極的に取り入れた。
職業体験・職業講座の受け入れ	17 人	職業体験として汐見台中学校・藤の木中 2 年生計 4 人を受け入れた。また、藤の木中学校で職業講座を実施した。
クラブ活動・総合的な学習等への支援		・岡村小学校の地域交流クラブに講師を派遣した。石器づくり・勾玉作り・弓矢づくりなど 各回 18 人参加（全 9 回） ・国大附属鎌倉小学校勾玉作り教室へ講師を派遣した。 38 人参加 ・岡村小学校 6 年生土器作りの指導に講師 2 名を派遣した。 59 人参加
ホームページの運営		・ホームページで催事案内やお知らせを公開した。 ・三殿台考古館の E メールアドレスをアップし、イベント参加申し込みに対応した。 ・年間催事案内を常時掲載し、体験学習等イベントの情報を発信した。
その他広報		・広報よこはま磯子区に体験学習の情報を掲載した。 ・プラネット神奈川や横浜カレンダーに情報を提供した。

（２）体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	510 人	・ゴールデンウィーク体験教室 5 月 3・4・5 日 3 日：火起こし教室 18 人 4 日：勾玉作り教室 24 人 5 日：石器作り教室 20 人 ・春の弓矢うち大会 5 月 25 日 7 人 ・開港記念日イベント（火起こし体験） 6 月 2 日 18 人 ・土器ペンダント野焼き 6 月 30 日 7 人 ・キャンプ in 三殿台 7 月 20・21 日：6 家族 24 人 ・夏休み体験教室 ①土偶作り教室 7 月 14 日 17 人 ②土器作り教室

		7月15日 27人 ③勾玉作り教室 7月27日・8月3日 25人 ※野焼き 8月25日 64人（保護者込み） ④石器作り教室 8月17日 13人 ・秋の勾玉作り体験教室 9月14日 8人 ・秋の弓矢うち大会 9月21日 10人 ・秋の土器作り教室 10月5・14日 各回8人 ・古代人体験教室 10月26日 3人 ・石蒸し調理実験（埋蔵文化財センターと共催） 10月27日 5人 ・秋の野焼き大会 11月9日 9人 ・ひらひら凧 12月22日 80人 ・冬の土器作り教室 1月5・11日・2月22日 延18人 ・冬の勾玉作り体験教室 2月1日 12人 ・冬の弓矢うち大会 2月15日 3人 ・随時実施の火起こし・勾玉作り 火起こし169人、勾玉作り5人
--	--	--

（3）その他利用促進事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
古代人体験教室	3,158人	弓矢撃ち体験の実施。無料。

（4）グッズ製作・販売事業

項 目	事 業 内 容
缶バッジの製作・販売	缶バッジの製作・販売 販売価格1個 100円 売上げ 128個 12,800円
土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントの販売 販売価格1個 700円・500円 売上げ @700×16個+@500×6個 14,200円

オリジナルクリアファイルの販売	オリジナルクリアファイルの販売 販売価格 1 枚 200 円 売上げ 84 枚 16,800 円
勾玉づくりキット	勾玉づくりキットの製作・販売 販売価格 1 個 300 円 売上げ 246 個 73,800 円

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に満足感を与えるよう運営しました。

（1）三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
経常的な維持・管理	・国指定史跡「三殿台遺跡」・管理事務棟・展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理。 ・台風被害で破損した屋根を職員により速やかに修繕した。 ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業や、施設内巡回などの危機管理対策を実施した。

（2）三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
自動販売機売り上げ（千円）	23	27	26	29

（3）三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	平令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
三殿台考古館施設入場者（人）	13,427	14,960	15,252	16,154



土器作り



弓矢うち



キャンプ in 三殿台

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集保管事業では、整理ボランティアに	B

	よる三殿台遺跡出土品基礎整理、収蔵記録資料のデジタルデータ化などを継続した。また、職員により三殿台遺跡調査時測量図面の整理を実施し、新たに遺跡全体図の再作成を実施した。	
常設展事業	常設展事業では建替えられた2棟の復元住居がリニューアルオープンした。 職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施した。 学校団体の見学は60校を超す来館があったが、夏の酷暑とコロナ禍の影響で来館者数は前年度を下回った。	B
企画普及事業	市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう、展示解説や体験学習を開催し、生涯学習活動を支援した。 体験学習の回数を増やし、また季節ごとに行うことで参加機会を増やした。屋外で行う無料の弓矢うち体験は、3,158人が体験した。 また、遺跡ガイドボランティアは1,000人以上の参加者をガイドした。	S
施設維持事業	老朽化の進む事務棟・展示棟・住居跡保護棟・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施した。 職員による遺跡内の草刈り、施設周囲の清掃を実施するとともに、台風による事務棟屋根破損等の被害に対しては職員が迅速に対応した。	A